令和 6 年 第 4 回 筑前町議会定例会会議録	
招集年月日	令和 6 年 12 月 6 日 (金)
招集の場所	筑前町役場議会議場
開 議	令和 6 年 12 月 10 日 (火) 10 時 00 分
散 会	令和 6 年 12 月 10 日 (火) 15 時 12 分
出席議員	<p>議長 田 中 政 浩 1 番 原 田 邦 男</p> <p>2 番 池 松 和 彦 3 番 原 口 博 文</p> <p>4 番 原 田 宏 5 番 木 村 和 彦</p> <p>6 番 石 橋 里 美 7 番 柳 雅 明</p> <p>8 番 山 本 一 洋 9 番 石 丸 時 次 郎</p> <p>10 番 奥 村 忠 義 11 番 山 本 久 矢</p> <p>12 番 河 内 直 子 13 番 寺 原 裕 明</p>
出席議員数	14 名
欠席議員	なし
地方自治法 第121条 の規定によ り説明の為 に出席した 者の職氏名	<p>町 長 田 頭 喜久己 副 町 長 中 野 高 文</p> <p>教 育 長 宮 崎 敏 宏 総 務 課 長 古 川 秀 志</p> <p>企 画 課 長 亀 田 美 香 大 刀 洗 稲 葉 佳 奈 平 和 記 念 館</p> <p>財 政 課 長 尾 畑 正 行 税 務 課 長 八 尋 福 由</p> <p>出 納 室 長 橋 本 照 美 住 民 課 長 吉 浦 高 幸</p> <p>人 権 ・ 同 和 尾 籠 浩 一 郎 健 康 課 長 橋 本 豊</p> <p>対 策 室 長</p> <p>環 境 防 災 課 長 岡 部 裕 行 建 設 課 長 行 武 一 洋</p> <p>都 市 計 画 課 長 田 中 達 也 農 林 商 工 課 長 谷 口 謙 司</p> <p>上 下 水 道 課 長 徳 永 正 弘 福 祉 課 長 神 崎 英 昭</p> <p>こ だ も 課 長 村 山 弥 生 教 育 課 長 宮 崎 宣 匡</p> <p>生 涯 学 習 課 長 小 川 真 一</p>
欠 席 者	なし
本会議に職 務のために 出席した者 の職氏名	<p>議会事務局長 山 本 孝</p> <p>議会事務局次長兼議会係長 坂 田 康 仁</p>

会 議 録

令和6年第4回定例会

[一般質問]

(1日目)

令和6年12月10日(火)

開 議	
議 長	<p>おはようございます。</p> <p>本日の出席議員は14人につき、定足数に達しております。</p> <p>これから本日の会議を開きます。</p> <p style="text-align: right;">(10:00)</p>
日程第1	
議 長	<p>日程第1「一般質問」を行います。</p> <p>質問の通告がっておりますので、順次発言を許します。</p> <p>7番 柳雅明議員</p>
柳 議員	<p>おはようございます。</p> <p>通告書に従って、質問をしていきたいと思っておりますが、ただ、一つだけ議長にお願いがございます。水の問題についてですけれども、上下水道課長にも水の問題について発言をしていただきたいなと思っておりますので、議長のお許しをいただければと思っております。</p>
議 長	許可いたします。
柳 議員	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、質問に入らせていただきます。</p> <p>生活につながる環境全般についての質問をいたします。</p> <p>酸素は生命の維持に必要不可欠なものです。空気中に2番目に多く存在する気体で、全体で21%を占めております。そのほか、78%が窒素で、ほかにアルゴンと僅かな二酸化炭素があるそうです。</p> <p>植物は、生命の維持のため二酸化炭素と水分で光合成を行い、でん粉を作成し、そのときに酸素を葉から放出いたします。</p> <p>また、水は、水蒸気が上昇し、上昇することで雲をつくってさらに上昇し、雲の中で氷結、氷となって、落下するときに雨やあられや雪となり、地上に降り注ぎます。山々の木々はその水分を腐葉土の中や地中に蓄えて、少しずつ集合して川をつくって麓へ流れていくそうです。この文言は小学生の理科の本にそう書いてあるそうです。</p> <p>まず、森林についてお尋ねいたします。</p> <p>なぜ森林経営管理法を制定しなければならなくなったのか、調べてみました。</p> <p>国は、戦後復興のため推進してきた森林産業が衰退ぎみのため、新たな取り組みとしての森林整備に着手することにいたしました。その主たる方針は、森林の多面的機能の発揮と林業の成長産業化です。</p> <p>しかし、そのためには、森林の実態の把握が第一義となります。</p> <p>そこで、最初に森林所有者の意向調査が始まりました。主な内容は、森林所有者に適切な森林の経営管理を促すための責務を明確化すること、森林所有者自らが森林の経営管理を実行できない場合については、市町村が森林の経営管理の委託を受けて、林業経営者に適した森林は意欲と能力のある林業経営者に再委託いたしました。再委託できない森林等及び再委託に至るまでの間の森林については、市町村が管理を実施するというふうな経営管理法でございます。</p> <p>お尋ねいたします。</p> <p>森林経営管理法に基づく意向調査が本年、令和6年度で終了すると聞いております。その結果に基づいて、来年度以降の森林整備計画をどのように考えておられるのかお尋ねいたします。</p>
議 長	農林商工課長
農林商工課長	お答えします。

	<p>議員ご指摘のとおり、森林経営管理法に基づく意向調査につきましては、今年度で町内全域の調査が一巡いたします。来年度以降につきましては、これまでの意向調査の結果を整理分析し、その結果を基に、既に進めております森林経営計画等による施業のための森林の集約化を図り、町内の森林を効果的に管理・整備できるようにつなげてまいりたいと考えております。</p> <p>以上です。</p>
議 長	柳議員
柳 議 員	<p>森林整備計画を早期に実施していただいて、町の森林、たくさんございますので、有効に活用できるようにお願いしたいと思っております。</p> <p>次の質問です。</p> <p>森林環境譲与税が本年度正式に決定いたしました。これは、県の譲与税と国の譲与税があるんですけども、毎年交付される譲与税の今後の用途について、何度も、前回もお尋ねしたんですけども、ほかの市町村の事例も参考に、当町の独自のプランはあるのかお尋ねいたします。</p>
議 長	農林商工課長
農林商工課長	<p>お答えします。</p> <p>森林環境譲与税の用途につきましては、意向調査のほかには、町の林業振興プランナーや、令和4年度からは独自に搬出路整備や林道整備に対する補助のほうに充当しております。現段階では、森林整備に直接的につながる事業を第一に進めてまいります。議員のおっしゃるように、他市町村の活用事例を参考に、今後補助等についての検討もいたしてまいります。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	柳議員
柳 議 員	<p>他市町村の事例を見ますと、様々な事例がございますので、本町も、独自の新しいプランを考えて、森林を整備していただきたいと思いますと思っております。</p> <p>次の質問です。</p> <p>本町の生産森林組合は解散傾向にあるのはご存じでしょう。山林に対する意欲の減少による結果と、山林による収入の減少と考えております。</p> <p>また、自分が所有する山林の所在地、それから、境界が分からないという人が多くなっております。</p> <p>さらに、自分の山林に対する魅力を感じないで、放置する人が少なからずいる現状もあります。</p> <p>意向調査の結果から様々に検討され、また、生産森林組合のこれからの在り方として存続なのか解散なのか、また、これこれからの対応もどのように対応していったらいいかお尋ねいたします。</p>
議 長	農林商工課長
農林商工課長	<p>お答えさせていただきます。</p> <p>これまでの意向調査の中で、山の場所を知らなかったという声や、今後どのように管理していったらよいか分からないといった声が多くございました。そのような方々に対しましては、地域おこし協力隊や林業振興プランナーを活用いたしまして、森林所有者への自宅訪問等を行っております。その中で、山林の場所の確認や町の整備方針についての直接説明をし、森林整備に関心を持っていただいているところがございます。</p> <p>ご質問の町内の生産森林組合の今後の在り方については、存続するか解散するかについては、各生産森林組合での判断になるかと思います。</p> <p>組合が所有する森林の整備方法の例といたしましては、通常は組合員の出資と労</p>

	<p>働により整備する方法がございます。</p> <p>そのほか、林業経営体と森林経営委託契約を締結し、林業経営体に管理を委託する方法がございます。また、過去には、生産森林組合と町とで協定を締結し、県の荒廃森林再生事業の実施により、切捨ての間伐を実施した実績もございます。</p> <p>一方で、生産森林組合が所有する森林はある程度まとまりがあることから、森林経営計画による整備が望ましいと考えております。</p> <p>各組合から整備に関する相談があった際には、組合員の意向を聞き、適切な整備方法の提案をさせていただきたいと思っております。</p> <p>以上です。</p>
議 長	柳議員
柳 議 員	<p>私が存じている生産森林組合ですけれども、ほとんどお金がないわけです。解散しようにも手続きが難しいし、維持していこうにもお金がないし、なかなか難しい状況。そして、山林の従事者が、年齢増加とともに減少しているということもあるようでございます。そこら辺も、また、町の在り方としても、十分検討をよろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>続きまして、水源の涵養、災害防止など、環境保全のためには森林作業が大きく関わっていると考へます。現状を見る限り、十分な手入れが行われている山林はあまり見受けられません。林業事業者、森林組合等の林業作業に対するさらなる助成があったら教えていただきたいと思ひます。</p>
議 長	農林商工課長
農林商工課長	<p>お答えいたします。</p> <p>林業経営体の森林作業に対する助成につきましては、先ほどご説明しましたとおり、搬出路網整備や林道整備に対する補助を実施しております。</p> <p>また、今後は他市町村の活用事例等も参考に検討しているところでございます。</p> <p>一方で、林業経営体が作成する森林経営計画に基づく森林整備につきましては、国や県の補助金を受けながら施業することができ、森林所有者の負担なしで施業することができることから、整備を進める上で最も有効な手段と考へております。</p> <p>また、森林経営計画に基づく整備であれば、伐採した木も搬出をするため、切り捨て間伐とは異なり、山がきれいな状態整備が進むといった大きなメリットもござひます。間伐材を搬出することにより、資源の有効活用につながりますし、台風や大雨時の木材の流出を抑制でき、災害に備えた森林づくりにつながると考へております。</p> <p>町としましては、第一に森林経営計画の面積拡大を目指し、併せて、森林環境譲与税を効果的に活用しながら、林業事業者の支援のほうを行ってまいりたいと思ひております。</p>
議 長	柳議員
柳 議 員	<p>森林に対してはなかなか行政のほうも後手後手のような感じで見受けられます。これから大事なのは、もっと積極的に森林に対してやっぱり目を向けるべきではないかというふうにお思ひております。</p> <p>最後に今J-クレジットというCO₂を吸収応援プロジェクトというのが言われております。林野庁の資料によりますと、カーボンニュートラル実現を図る上で、これらの方法を拡大して、森林の整備、森林の保護に寄与する仕組みとして捉えられているようです。</p> <p>端的に申し上げますと、森林が持っているCO₂の吸収量、この吸収量をCO₂排出企業に売却する仕組みです。ですから、CO₂を出す企業さんのCO₂を山が買うということです。こういう仕組みだそうです。この利益によって森林整備を進める</p>

	<p>という構図になっているようです。今後、自治体における森林整備上での財源確保や、森林組合の継続につながる仕組みではないかと考えております。これは全世界で今言われている言葉です、J-クレジット。今後また流行ってくるというか、今後活用されていく事案ではないかというふうに思っております。</p> <p>続きまして、有害鳥獣についてご質問いたします。</p> <p>今年、県の林活議連会議の中で、林野庁からの話として、森林保護のための鹿対策の話が出ておりました。日本には現在推計で310万頭の鹿がいるということです。鹿の被害の対策として、半減した150万頭まで減少させることを目標として進んでいるという話がありました。</p> <p>聞くところによりますと、資料のほとんどが、足罠、足で捕まえる罠です、それから箱罠、四角の箱の檻の中に入れる箱罠です、それから猟銃による捕獲ですが、猟銃は僅かな数とのことでございます。</p> <p>また、確保数が減少している原因の一つには、常時従事できる、いつも山に入って狩猟できる狩猟者の減少と、捕獲に対する補助額の問題で、補助金の問題ですね、力が入らないという意見も聞こえておりますが、お尋ねいたします。当町の捕獲数は減少傾向との発表もあったようですけれども、どの程度有害鳥獣への減少とつながっているのかお尋ねいたします。</p>
<p>議 長</p>	<p>農林商工課長</p>
<p>農林商工課長</p>	<p>お答えいたします。</p> <p>まず、筑前町における有害鳥獣の捕獲頭数の推移についてご説明いたします。</p> <p>令和4年度はイノシシ・鹿・アライグマ・アナグマ、合計で796頭であるのに対し、令和5年度が合計で584頭、令和6年度は10月時点で捕獲頭数が合計で295頭となっており、前年の令和5年度と同水準かやや減少となる見込みとなっております。したがって、ミクロの視点で見ると、捕獲頭数は減少傾向にあると考えることができます。実際に、捕獲従事者の代表者の会議の中でも、山奥はともかくとして、目撃することが減った、数が減って捕獲が難しくなったという意見をいただいております。</p> <p>ただし、それ以前の令和2年度、こちらは317頭、令和3年度は423頭と、そちらと比較しますと、捕獲頭数は非常に多い状態となっており、視点を変えるとやや増加と考えることもできます。ただし、こちらにつきましては、令和4年度以降の捕獲頭数が増加している背景には、イノシシ・鹿成獣1頭あたり9,000円の上乗せをする有害鳥獣捕獲報償金を導入して、捕獲強化を図ったことが大きな要因として考えられます。</p> <p>捕獲頭数の増加が、有害鳥獣の生息頭数の増加によるものとは断定することができません。しかしながら、イノシシ・鹿につきましては、近年捕獲頭数が減少しているということから、捕獲による個体数削減を実施しやすい領域、すなわち、農業に引き起こす可能性の高い個体が生息する領域につきましては、生息頭数はやや減少傾向にあると考えております。</p> <p>ただし、アライグマにつきましては、反対に、生息域、生息頭数が年々拡大していると考えております。これにつきましては、捕獲頭数が年々増加していることからの推定だけではなく、令和5年度の福岡県が実施したアライグマの生息数調査の結果においても示されているところでございます。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>議 長</p>	<p>柳議員</p>
<p>柳 議員</p>	<p>アライグマの話が出ましたけれども、自分、干し柿を作っていたんです、渋柿を。渋柿を軒先に並べてたんです。そしてカバーかけてたんです。渋いうちはなかった</p>

	<p>んですけども、二、三日前だったですかね、網、全部破られて、干し柿食べられてしまいました。アライグマだろうと思います。あとはハクビシンなのかもしれないんですけど。もう里まで下りてきて、いたずらばっかりやっている状況です。もう全部食べられなくなってしまいました。一応そういうことです。</p> <p>それから、次の質問ですけれども、捕獲されました有害鳥獣の処分です。内臓関係になると思いますけれども。それから骨なんかです。現在捕獲者任せの状態のようですけれども、有効活用への道を何か考えていらっしゃいますでしょうか。</p>
議 長	農林商工課長
農林商工課長	<p>お答えいたします。</p> <p>捕獲した野生鳥獣の処理につきましては、鳥獣管理保護法におきまして、捕獲者の責任において適切に処理することが定められております。ここで言う適切な処理とは、埋設の処理や、捕獲個体全量を持ち帰ることを指しております。</p> <p>さて、筑前町における捕獲個体の処分の状況でございますが、正確にその割合を把握しているわけではございませんが、現地での埋設処理を行うよりも、持ち帰って自家消費をされているケースが多いように思われます。その中には、ペットフードを製造している事業者への持込みを行っている方や、鹿の角のほうを確保して、ペット用のおもちゃとして提供されている方もいらっしゃると聞いております。</p> <p>現状におきましては、民間の範囲での有効活用が図られており、また、捕獲従事者の方からも、処分方法についての要望をいただいているわけではございません。また、仮に活用する場合において、それに係る施設の維持や、解体後に生じた残渣の産廃処理等のコストが必要になってくることから、現段階では公の施設としてそういうものを設置する予定はございません。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	柳議員
柳 議 員	<p>分かりました。将来的に、やはり処分の方法がなかなか、埋設にしても大変だということは自分も現実に見ております。なかなか難しい問題ですけれども、これも有効に考えていっていただきたいと思います。</p> <p>次の質問に行きます。</p> <p>次は河川、井戸水の状況調査についてです。</p> <p>水源の涵養として森林が挙げられております。そこから生み出される水と酸素は、全ての生き物の生命の糧として役割を持っております。森林の役割と水の関係は永久に切り離すことができない絆です。</p> <p>水質調査に関して、今年8月、独自に地区内を流れる川の水質を行いました。結果は、水質汚濁基準、環境基準ですかね、昭和46年12月環境庁告示によりますJ I S規格や告示規格の下限値未満でございました。また、10月に行った自宅の井戸水検査の結果でも、飲料水として使用可能な基準値でした。</p> <p>森林に降った雨は地下水や伏流水となり、全国どこでもくみ上げることができます。ただし、様々な要因により、どこでも環境基準以内になっているのでしょうか。</p> <p>お尋ねいたします。</p> <p>水質調査は地域の安心材料の一つとして考えますけれども、現在、町独自で行っている水質検査の調査状況をお伺いします。</p>
議 長	環境防災課長
環境防災課長	<p>お答えいたします。</p> <p>本町では、環境基本計画に基づき、毎年、測定機器や資格者を保有した業者との入札を行い、落札業者との委託契約後、河川と地下水を対象に水質検査を行っております。</p>

	<p>河川は町内に一級河川、準用河川、普通河川が約40河川あり、検査場所は主に河川の合流地点の下流にて、年3回検査を行っております。地下水につきましては、山間地域と水道未整備地域のパターンと、水道未整備地域のみのパターンを、毎年交互に年1回行っております。</p> <p>地下水の水質検査結果につきましては、特に問題ございませんけれども、河川におきましては、特に時期にもよりますけれども、大腸菌などが基準値を超えているというふうなこともございますので、こういった結果を見てみますと、野生動物などの影響もあるのかというふうに考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	柳議員
柳 議員	<p>大腸菌など、それから、そういうものがあるということですが、多分、どこかの県でも子どもたちが泳いでいて大腸菌でおなかを壊したという事例があったようですけれども、やっぱり、たまり水のところには大腸菌なんかが発生するんでしょうね。水が流れている夏とかは、どんどん水が流れて、雨が降ってどんどん水が流れるので大丈夫なんだろうとは思いますが、</p> <p>次に、その結果はどのように行われておりますか。公表ですね。</p>
議 長	環境防災課長
環境防災課長	<p>お答えいたします。</p> <p>水質検査結果の公表につきましては、現在公表しておりません。ただ、地下水につきましては、採水場所につきまして公民館を使用しておりますので、検査結果につきましては区長さんのほうに報告を行っている状況でございます。</p> <p>今後の地下水、河川の水質検査公表につきましては、近隣自治体の状況を踏まえながら検討したいというふうに考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	柳議員
柳 議員	<p>公表は大事なことだろうと思っておりますので、ぜひ前向きにしていっていただきたいと思っております。</p> <p>ここで、PFAS——有機フッ素化合物と言われる物質が近頃言われております。その成分は、水に含まれて発がん性、それから子どもの成長への影響があると言われております。防水服、半導体、泡消火剤、フライパンのコーティングなどに使われている防水加工材に含まれている物質ということです。</p> <p>水道水から50ナノグラムの暫定目標値を上回っている市町村が全国に14か所あるそうです。この中で、4年連続で水道水から、上水道ですね、暫定目標値の28倍のPFAS、ピーエフエーエスが検出されている市町村もあるそうです。現在はその市町村は水源を変更して対応しているとのこと。ただし、これはインターネットからの情報で調べております。</p> <p>このことにつきまして、先ほどもお願いしましたんですけど、上下水道課長、現在の状況をお知らせください。</p>
議 長	上下水道課長
上下水道課長	<p>お答えいたします。</p> <p>本町の水道水につきましては、全量受水しており、その受水元である福岡県南広域水道企業団において、法令に基づく項目のほか、監視の必要があるPFOS、PFOAなどの項目について、原水と浄水について検査をしております。原水とは水道水をつくるために取水している筑後川の水、上水とは水道として供給する水でございます。</p> <p>PFOS及びPFOAの令和6年4月から10月までの検査結果は、環境省暫定</p>

	<p>目標値50ナノグラムパーリットルの10分の1以下である5ナノグラムパーリットル未満となっており、水道水に関し安全であり問題ないというふうに考えております。</p> <p>また、この水質のことについては、重要なことであり、町民の関心度も高いと思われるので、福岡県南広域水道企業団とも協議の上、ホームページ掲載などで周知を図りたいというふうに考えております。</p> <p>以上です。</p>
議 長	柳議員
柳 議 員	<p>ありがとうございます。</p> <p>このPFAS問題は世界的にかなりクローズアップされている問題ですので、本町の上水がまだ現在のところ安心して飲める水ということでありました。安心しました。</p> <p>次の質問に移らせていただきます。</p> <p>これからの都市計画についてでございます。</p> <p>九州横断道の筑後小郡インター周辺の大刀洗町、小都市、筑紫野市にかけての久留米筑紫野線沿いは、農地や畑がみるみる開発の用に供されまして、以前の面影が消えて、数多くの企業が進出しております。これにより、市町村や地域は、様々な意味で潤って、経済の発展につながっているようです。</p> <p>しかし、この開発の現状を見て、内心不安に思っているのは私だけでしょうか。先祖伝来の土地が消えてしまい、広大な開発用地がさらに大きく広がっていきます。緑が消滅し、そこに住む住民や地域の在り方が全く違った形に作り変えられてしまうのではないかというおそれを考えております。</p> <p>そこでお尋ねいたします。</p> <p>この久留米筑紫野線沿いに位置する当町は、今後どのように変化するのか、一抹の不安もあります。きちんとした計画の下にまちづくりをしてほしいものです。将来の都市計画はどのように描かれているのか、お知らせください。</p>
議 長	都市計画課長
都市計画課長	<p>お答えします。</p> <p>総合計画に掲げる将来像、「緑あふれる豊かで便利とかいなか」を具体化するための都市計画分野の基本指針が都市計画マスタープランです。</p> <p>平成21年に策定し、本年6月に一部改定した筑前町都市計画マスタープランでは、主要地方道久留米筑紫野線沿道の将来像として、新しい就労の場としての工業団地の形成が描かれております。また、その実現のためには、乱開発の防止が課題の一つとして示されております。</p> <p>本町は、全町が都市計画区域内の市街化区域、市街化調整区域の線引きをしていない非線引きの区域です。非線引き区域は、都市計画法上ではどこでも開発が可能な区域であります。</p> <p>一方、本町は山林や用途地域を除いて、そのほとんどが農業振興地域でありまして、さらにそのほとんどが農用地区域となっております。農用地区域は、ご存じのとおり、農業生産の基盤として確保されるべき土地でありますので、農地以外の利用は厳しく制限されます。主要地方道久留米筑紫野線沿道は農用地区域が指定されておりますので、乱開発は未然に防止されているところです。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	田頭町長
町 長	<p>若干補足をさせていただきます。</p> <p>ご存じのように、今、久留米筑紫野線が、4車線化が、これも大変な努力によっ</p>

	<p>て進められているところであります。これは町を挙げて、町の方針として、4車線化を推進していると、そういったことを明確に表明しております。したがって、今4車線化が進んでおりますけれども、ここ数年で完工いたします。</p> <p>議員もご承知のとおり、あの道路は地元の方々も産業道路と呼んでおります。とはどういったことかと、数十年前から圃場整備をするときから、あの沿線は産業道路として活用していくんだと。そして、その沿線は産業道路の恩恵にあずかるんだと、そういった思いを強く持っておられます。</p> <p>したがって、圃場整備を推進するときも、あの地域については、やがては、沿線等々については、しっかりとした雇用の場ができると、地域の発展につながると、そういった熱い思いの中でああいった圃場整備もなされているものでございます。</p> <p>もちろん、法律的には、農振地域の農用地域はそういった工業地域とは相入れないものでありますけれども、本町の一番相容れないところは、ほぼ全町を農振地域にかぶせて、ほぼ全町を都市計画に掲げていると。まさに、ここに、とかいなかのまちづくりの基本的な真髓があるわけでございます、その辺を、どう我々の知恵で、そして思いで調整していくのかということが極めて重要であります。</p> <p>だから、漠然とあの地域は農振地域だと、漠然と工業地域だということではなくて、我々が直接足を運んで、地元の意向を踏んで、10年前、20年前と今の住民の方々が同じ思いなのかと、そういったこともしっかり踏まえて我々はまちづくりをすべきだろうと考えるところであります。</p> <p>もちろん、短期的な視点だけで土地利用を考えるものでは全くありません。しかしながら、社会は変わっている、変化していると、人口減少社会なんだと、雇用がないと、そういった場面については、土地利用も大いに考えなければいけないということになるかと思えます。</p> <p>それからしますと、あの地域は、議員も知ってのとおり、コストコができました。かなりの交通量もでございます。併せまして、あそこに、丸町区等をはじめとして、様々な厳しい議論の上、熟慮の上、食肉センターを受け入れるような段取りで進められております。まさにあそこも農振地域でありますけれども、それでも、地域住民の合意、そしてその合意の力によって農振地域の変更も動く。机上で書いた計画だけで土地利用が決まるわけでは全くございません。やっぱり、地域の方々の思いがあって、その思いがそういった土地利用の変更にもつながるということであります。</p> <p>したがって、あの路線は、コストコができた、周辺にかなりの工場用地もできている、そして本町においても食肉センターをつくと。これは町のほうもそういった方向性で賛同しておりますし、企業誘致という位置づけで取り組んでおります。したがって、あの誘致は、ある一定線は、そういった工業誘致で進めることが望ましいと町のほうでも考えているところであります。</p> <p>以上です。</p>
議 長	柳議員
柳 議員	<p>きちんとした都市計画で、やっぱり、農用地との兼ね合いをうまく考えながら、工業用地は進展していただきたいと思いますので、その点はよろしく願いいたします。</p> <p>次の質問ですけれども、農地や山林に関する無秩序な開発や売買が生じた場合、それらを規制する条例は十分に用意があるのでしょうか。</p> <p>土地について、特に山林では、既に売却希望者やら既に売却している人が現れております。今後、外国籍の方が農地や山林の取得が増加していく時代になっていく</p>

	<p>と思うんですけども、その辺りの法的な問題は何かあるのでしょうか。よろしくをお願いします。</p>
議 長	農林商工課長
農林商工課長	<p>お答えします。</p> <p>まず、規制の状況についてお答えさせていただきます。</p> <p>山林の開発につきましては、福岡県林地開発行為許可事務取扱要領第4条の2において、転用する面積が1ヘクタールを超える場合は、事前に県へ林地開発許可申請が必要となっております。さらに、面積が0.6ヘクタール以上、1ヘクタール以下の場合につきましては、届出書の提出のほか、林地開発事前協議が必要となっております。</p> <p>また、太陽光発電施設の設置を目的とした場合には、さらに厳しい要件となっており、0.5ヘクタールを超える場合に、林地開発許可申請が必要であり、さらに、0.3以上0.5以下の場合でも、林地開発事前協議が必要となっております。</p> <p>そのほか、山林を売買した場合には、国土利用計画法や森林法に基づき、町への届け出が必要となっており、林地開発行為以外の伐採につきましても、伐採前30日から90日以内に伐採及び伐採後の造林の届出書を、伐採が完了しましたら、伐採後30日以内に伐採に係る森林の状況報告を、造林が完了しましたら、造林後30日以内に伐採後の造林に係る状況報告書を提出するように定められております。</p> <p>続きまして、農地の開発につきましては、農業振興地域の整備に関する法律や農地法で、宅地や雑種地など、農地以外のほかの用途に変更する場合においては規制がございます。農地としての売買につきましても、同様に農地法の規制で許可が必要になっているところでございます。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	都市計画課長
都市計画課長	<p>都市計画課からは、開発に関することについてお答えをいたします。</p> <p>先ほどの答弁のとおり、本町のほとんどが農地以外の利用が厳しく制限される農用地区域となっておりますので、無秩序な開発は未然に防止されているところです。</p> <p>また、都市計画法の開発許可や町開発指導要綱、建築基準法に基づく手続きの中で、指導及び協議等により、環境の保全や災害の防止、利便の増進が図られております。</p> <p>さらに、町では自然環境保全条例を制定しており、町が指定した地域内での開発事業は、町との事前協議の中で自然環境破壊を防止する対策を講じることができま</p> <p>す。</p> <p>もし、これらの法・条例に違反した場合は罰則規定がございますので、無秩序な開発を防止する対策の一つとして考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	柳議員
柳 議 員	<p>都市計画は非常に難しい問題がいろいろあります。これからの筑前町をしっかりとした都市計画で進めていただきたいと思います。</p> <p>最後に町長にお伺いいたします。</p> <p>町長がお考えになる将来像として、最後に、町長は、将来の筑前町をこれまでの実績を含めてどのように想像され、さらに次の世代へと進めていく、どのようにパトタッチをする構想がおりなのかお尋ねいたします。</p>
議 長	田頭町長
町 長	<p>当然これは議員と町長は同等でございます。したがって、まず、議員のほうからどういった構想をお持ちなのか、そしてその構想について私もお答えしたいと</p>

	<p>思います。 よろしく申し上げます。</p>
議 長	柳議員
柳 議員	<p>現在2名の方が町長選のほうに名のりを上げられております。来年4月が町長選でございます。そのほかにも、考えがある方がいらっしゃるかもしれませんし、現在の町長のお考えと立ち位置をぜひお示ししていただきたいと思っております。</p>
議 長	田頭町長
町 長	<p>その前段としまして、今後の方策とか今後のまちづくりはどうあるべきかということを私に問われております。そのことについても、ぜひ議員として、住民の方々にお示しをいただきたい。</p>
議 長	柳議員
柳 議員	<p>先ほども申しましたように、山林に関して、それから水の問題に関して、そして、都市計画に関して、筑前町をこれからどのようにしていけばいいのか、自分もすごい不安に思っていることがございます。それは、水質が汚染され、それから、山林はやはり無秩序な開発が進められております。私たちの生活が本当にこのままの状態でもいいんだろうかというふうに自分は思っておりますし、全てが開発されていって、町自体が本当に何か違った形になってしまうのがすごい不安に思っているし、怖い状況でございます。</p> <p>やはり、昔からずっと生活してきた、僕も70幾つになって、この町がもっとこのままで本当はあってほしいと思うんです。そういう思いで質問いたしておりますし、町長もこれまでいろんな実績を持って町を進めてこられました。</p> <p>そして、この町全部が農用地になっております。それも、町長の思いから、いろんな農業に関してのことに対してもいろんな政策をされてきましたし、それはすばらしいと思っております。</p> <p>しかし、次の世代の人たちがそれをどう受け継いでいかれるのか、とても不安に思っております。不安に思っているからこそ、町長が、次にどういうふうにしてこのまちを構想して、どんなふうな思いで次の世代へつなげていかれるんだろうかというふうなことを、ぜひここで述べていただきたいと思っております。</p>
議 長	田頭町長
町 長	<p>我々、やっぱり歴史感を持って、そして先見性を持って臨むべきは政治家だろうと思っております。これは議員も町長も同じでございます。同じ住民の方から負託を受けて、どんなまちにするんだということを述べて、やはりそれに向けてどれだけ努力をしたか実行したかということが問われるのが4年間だろうと思っております。</p> <p>まさに、私も、4年間、そして4期、終わろうとしておりますけれども、1年1年が初年度のつもりでしっかり努力をさせていただきました。と同時に、政治家1人でできる話では全くございません。ご承知のように、職員と住民と、そして議会と総合力によって、やはり町はよくもしまししょうし後退もすると思います。</p> <p>そこで、私も、ここ4か月ぐらいから、この町はこの20年間でどのように変わっていったんだろうと。私の思いもございますけど、その思いだけが絶対通じるものではございませんし、結果として何だろうと。政治家は結果責任でございますので、何を言ったかではなくて何ができたんだろうということを率直に私自身に問いながら、そして職員の協力を得ながら、住民の意見を聞きながら、私なりに幾らかまとめる必要があるだろうと。そして、住民の方々にそれを述べる責務があるだろうと、そのように考えたわけでありまして。</p> <p>そして、物の見方というのは複眼的であります。町長から見たまちづくり、職員</p>

から見たまちづくり、議員から見たまちづくり、それぞれしかるべきであります。ですから、議員は議員としたまちづくりをきちっと述べるべきでありますし、町長は町長としての目線、職員は職員として、住民は住民としての目線で、この20年間を振り返り、そして将来につなげるべきだろうと思うところであります。

そこで、私も、無理に無理を重ねて、私の乏しい頭で、20の選択をいたしました。いろいろ、みんなとやったことは50も100もあるんですけども、その中でも我が町で特徴的なものは何だろうと、問い合せをしながら、自分に問いながら、20の項目を挙げたところであります。今、まだ取りまとめ中でありまして、ぜひ私もそれをお示しさせていただいて、ご意見なり……。ただ、私の意見とは意見として、このまま私は多くの町民の方に伝えたいと思っております。

その中に、私はこの20年、何を基本にすべきだろうかと考えた場合、やはり大きな大変革は、ナンバーワンは、市町村合併であります。合併は行財政改革の最大のものであります。現に、町長も2人おったのが1人であります。4役8人おったのが3人に今なっております。議員だって28名おったのが14名になっております。これを、今、合併しなくて14名の議員を7名にできるかと、まず至難の業であります。そういったことからすれば、私は物事のこの20年間の根幹になるものは市町村合併であったと、そのように考えております。そのことをきちっと皆さんで受け止めていただいて、市町村合併の思いが今どうなっているのかと、そしてどうなるかということを考えないと、将来は見えてこないんじゃないだろうか、そのように思うところであります。

市町村合併にまさに変わったところを言いましたけど、職員だって頑張りました。二百二、三十人おったのが170人台で今やっております。そして、その分の財源ができました。その分の財源は、やっぱり、福祉とか新たなオンデマンドとか、新しいまちづくりに進められております。私は市町村合併こそ最大の行財政改革であったし、筑前町の根幹をなすものだと考えておるところであります。

この筑前町という名前自体も、もう皆さん若い人たちは当然のことと考えてありますけど、本当に三輪・夜須だけの合併の話じゃなかったんです。国なんかは強力に合併を進めてまいりましたけども、その合併は10万人構想でありますので、甘木・朝倉の合併でありました。しかし、そこはやっぱり我々の先人先輩方はしっかり熟慮に熟慮を重ねて、甘木・朝倉の合併もしかりだろうと、それとも三輪・夜須だけの合併もしかりだろうと、筑紫野市との合併だって希望はあるよと、しない選択だってあるよと、その熟慮をしたわけであります。その辺を、我々は今一度そのことを振り返って考えてみて、そして、三輪町、夜須町を選んだんだということでもあります。したがって、そのことから考えて、そう簡単に筑前町ができたものではないということをまずは基本に据えて今後を考えるべきだろうと思っております。

そして、この合併がなければ、当然できていなかったものが私は三つあると思っております。それは、「みなみの里」と「平和記念館」と「ポポロ」、この3大施設は、合併のエネルギーなしには、その燃え上がる競争意識がなければ、そして財源がなければ、できなかった施設だと私は考えます。したがって、合併によってこの三つの施設ができた、そのことによって町が活性化をしたということ私には言えると思えます。

先日、北海道大学の教授から手紙を頂きましたけれども、本町は地方創生に成功した町ではないかと。合併ということで人口減少が進むだろうと、多くの自治体がそうなっている中で、そして国のシンクタンクも本町の2024年度は2万7,000人台だろうと言われておったのが、3万800人近くなっていると。このことは、

学者から言わせれば、本当に何かすばらしいとか奇跡的なことだとも言われております。そのことも我々は正直に客観的に、主観的ではなくて、客観的に判断すべきだろうと考えます。

したがって、2万7,000人の町だろうと言われた町が3万を超える町になったということは、その分だけ経済が活性化して、まちが元気になって、人口が増えた。地方創生の目的は間違いなく人口問題でありますので、人口問題としては全国のモデルになってもおかしくないというふうな表現をさせていただいているところであります。もちろん少しお祝いの言葉でもありましようけども、確かに人口が増えたことは事実でありますし、その分によって多くの住民の方々が、地域が元気になったということは実感しておられるのではなかろうかと思っております。

それと、ほかにも様々ございますけども、20周年でありますので、私は20項目を考えております。それぞれを考えて、それぞれまとめて、そして住民の目線で考えてみました。単純に、みなみの里ってあんなとこにつくって誰が成功するかと言われたのが事実であります。しかし、出荷者の努力、そして職員の努力によって、今あのようにどうかどうにか維持できております。まだまだどんな困難な道があるかもしれませんけれども、でも今のところよく行っていると。平和記念館にしても、あんな記念館に誰が10万人も行くかと、本当に言われておりました。しかしながら、今10万人近く来館をいただいております。一番想定外にうれしかったことは、若者たちが来ているということでもあります。そして、今度、知覧、南九州市の市長も見えますけれども、本当にマスコミなんか多くの町内外の人たちから注目される施設になったと、筑前町の住民の一つの誇りになったと、そういった効果は大きいと。そして、収支を絶えず意識しながらやっていると。このことが私はすばらしいことだろうと思っておりますし、そういった意見も多く聞くところであります。もちろん、お金がかかりますので、収支があそこだけでできているわけじゃありませんので、そうでありますけれども、そういったことがあってもやっていると。これは県なんか高く評価してくれています。そういったこと。

それともう一つは、ゴジラの問題。これも本当に自発的に町民の方々から、「若者会」というグループがありますけれども、その若者会を盛り上げようという多くのボランティアの方々の集まりによってできた。これはほかの自治体ではなかなか例を見ません。よく私のほうにも問い合わせがあります。どうやったらあんなふうになるのかとか、どういったふうにあれができるのかと、そのことは議員各位もぜひ町民の方を褒めてやっていただきたい。そして多くの方々に紹介してやっていただきたい。それは私はやっておりますけども、ぜひ議員のほうもお願いしたいと思っております。これはかなり高く評価されております。このことが人口増の一つの要因であることも考えられます。全てではありませんけど。

それともう一つは、私、新たなものとして、草場川の桜並木があると思います。あれは、本当に30年前、当時の三輪町役場の職員の人たちが中心になってやったんでしようけども、でも、この10年ほど前から、あれが名所として多くの方々の認めるところになりました。それは、我々も本当にそのとおりで思っております。先人たちがまいた種が、我々はその果実を享受しているということでありまして、そして商工会が頑張っってライトアップまでしてくれたと。このことによって、桜の名所が筑前町にはあると、ほかにもいろいろ桜はありますけれども、名所になったということを我々大いに認めるべきだと、そういったことも書いております。

それとやっぱり道路であります。簡単に道路をつくったらまちがよくなるとか言いますが、道路をつくるには並大抵なエネルギーが要ります。全国、道路をつくりたいという自治体ばかりですから。その中に道路をつくってほしいというのは、

	<p>まさに政治家の出番でもあります。議員各位も多くの方々に努力をしていただいております。私も努力しております。東京に行くのはほとんど道路関係が多いです。そういった方々の努力が実って、ようやく先人たちがまいた種がようやく4車線化につながったと。この20年間の間に200号バイパス、久留米筑紫野線、今4車線化が進んでおりますけど、これも本当に先人の方々の努力以外には何もものでもないと思っております。ようやく我々は果実を享受できるような時代に遭遇しているということだろうと思っております。</p> <p>それともう1点、私ども山間部の、議員もお住まいのところの山間部は、大いなる課題を持っております。課題は人口減少であります。人口減少をどうするのかと。やはり、人がいなければ山も田んぼも守れないわけであります。そして、一番理想的なのは、新しい住民も来ることも大事ですけども、うちから出ていった人が帰ってきてほしいと、そういったまちづくりこそ私は理想ではなかろうかと、そのようにも考えます。</p> <p>したがいまして、どういったことをやるかということでもありますけれども、それには私は3本の柱を立てて、一つは山麓線を絶対開通すると。これは、以前の議長の子議長なんかもしっかり努力をしていただきました。議員も一緒になって県のほうに行きました。そして開通いたしました。</p> <p>それともう一つは、光回線であります。どんなに道路が整備されても、若者は光がないと駄目です。そのことでNTTに交渉をやりましたけれども、ままたらんと。そういったことでどうにか総務省と相談できて、国の補助事業としてできた。</p> <p>それともう一つは、そこに地域活性化の拠点としてみなみの里を何としてでも成功させると。そういった強い地域の方々の思いがあって、今言った成長の状況にあるということでもあります。みなみの里で今一番うれしいのは、とかく合併したときは三輪と夜須の、ある一定の張り合いがあったんです。こういった張り合いをなくすことこそ私は一番大事だと。そのためにはお互いの共有の目的を持つべきだと。そういったことで、食と平和という大きなテーマを掲げて、これは両方とも共通の課題であるし目標であるので、それに向かって進んでいくことが大事だろうということでやらせていただいておりますし、皆さんと共に各種施策をやってきたところでもあります。そのことで、みなみの里についても、最初は夜須の施設だ、記念館は三輪の施設だと言われておりましたけれども、みなみの里にも今、全行政区から出荷していただいております。そういったことで本当に全町的な施設になったなど喜んでいただいております。</p> <p>最後に質問された分、時間ですので、これはマスコミの関係、報道関係との調整もごさいます。今この場で言うことを私は適当でないと思っておりますので、この議会の会期中に、別途私の意見として述べさせていただきます。</p> <p>以上です。</p>
議 長	柳議員
柳 議 員	町長の熱い思いを聞かせていただいております。ありがとうございます。 これで私の質問を終わります。
議 長	これで、柳雅明議員の一般質問を終わります。
休 憩	
議 長	ここで休憩をいたします。 11時10分から再開をいたします。 <div style="text-align: right;">(10:58)</div>
再 開	
議 長	休憩前に引き続き会議を開きます。

	(11:10)
議長	5番 木村和彦議員
木村議員	<p>よろしくお願いします。</p> <p>質問に入ります前に、2024年日本原水爆被害者団体協議会、略称被団協が、ノーベル平和賞を受賞されました。本日12月10日、オスロにて授賞式が執り行われます。この受賞は、被爆者の声を68年にわたり世界に発信され、核のタブーを訴え続けた行動が評価されたと伺っています。アルバート・アインシュタインの言葉に、第三次世界大戦でどのような兵器が使われるかは分かりませんが、第四次世界大戦では、こん棒と石で闘っているだろうと言っています。つまり、第三次世界大戦が起これば、そこで文明は崩壊することを指していると思います。混沌とした世界情勢の中で、平和を願う筑前町としては、大刀洗平和記念館を軸として、戦争がいかに悲惨であり、平和が尊いものであるかを発信し続けていかなければならないと改めて考えさせられました。</p> <p>それでは、通告に従い、質問してまいります。</p> <p>1番、子どもたちの学力・体力向上に向けた取り組みについて、今回は主に夏休み期間中の取り組みについて質問します。</p> <p>夏休みの目的と意義についてですが、学びの場を教室から外に移し、社会や自然の中で学ぶ体験学習の機会として、野外活動、スポーツ、芸術、科学実験など、多岐にわたる活動が含まれます。これは、児童生徒が新しいスキルを学び、自己の興味や才能を探究する手助けをして、自立心を養う機会であるとあります。校長先生と話した中でも同様の内容で説明されたので再確認したところです。</p> <p>それでは、質問に入ります。</p> <p>夏休みとはちょっと違うんですけども、水泳教室の実施状況、プールの使用日数等について伺います。</p> <p>今年も高知県の学校プールにて小学生が溺れ死亡した悲惨な例もありましたが、調べてみますと、複数の事故も今年は発生しております。水泳教室は、子どもたちの体力向上だけではなく、子どもたちの死亡原因上位を占める溺死リスクを88%防ぐとのデータもあるそうです。本校における学校の水泳教室の時間並びに監視体制の人数を伺います。あと、プールの使用日数も教えてください。</p>
議長	教育課長
教育課長	<p>お答えいたします。</p> <p>体育の時間における水泳の授業につきましては、小学校低学年は水遊びとして10時間程度、中学年、高学年は水泳運動として8時間程度、中学校は水泳として8時間程度、いずれも体育の年間の授業時数の約10分の1程度を充てており、時数として適切であると考えております。</p> <p>また、水泳の授業に関わる教員につきましては、国が示した水泳事故防止必携に基づき、指導する教員と監視する教員を充て、複数の学級で行う場合も、学級数の教員に加え、監視する教員を1名以上配置しているところでございます。</p> <p>以上でございます。</p>
議長	木村議員
木村議員	監視員の人数は、低学年、高学年同等でやられているんですか。それとも、一緒ですか。そのところを教えてください。
議長	教育課長
教育課長	<p>お答えいたします。</p> <p>管理体制につきましては、学年の違いで管理体制が異なることはありません。各学校共通しているのは、先ほど申し上げましたように、学年や複数の学級で行う場</p>

	<p>合も、学級数の教員に加え、監視する教員を1名以上配置しているというところがございます。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	木村議員
木村議員	<p>ちょっと理解できなかったので、再度質問したのですが、分かりました。</p> <p>小中学校のプール事故が毎年起きています。これは、調べてみたら全国各地で今年も起きています。今後も事故がないよう、しっかりと監視、指導していただければ幸いです。</p> <p>次の質問に行きます。</p> <p>再開に向けて検討されたとも伺いましたが、今年も、夏休み期間中、プールの使用が中止されています。その理由について伺います。</p>
議 長	教育課長
教育課長	<p>お答えいたします。</p> <p>小学校におきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大前には、夏期休業中のプールの開放をPTAの取り組みとして行っていた学校もありました。</p> <p>本年度プール開放を中止したのは、各地でプール事故が発生し、その監視体制が問題視されており、事故の責任を善意で行っていただいている保護者の皆様に負わせることができないこと、プールへの行き帰りも含め、熱中症が懸念されること等の理由からでございます。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	木村議員
木村議員	<p>今の説明では、大枠2点で中止されたというふうに理解します。保護者の方々に、冒頭述べた夏休みの意義を話したところ、家庭の事情や子ども本人の意思など、家にいる時間が多いとの声が大半でした。また、温暖化による酷暑も影響していると思われれます。来年度以降の再開に向けて、できるなら開けてほしいとの声もありました。中止になった問題を全て解決することは容易ではありませんが、問題を解決して再開に向けていくことは重要であると考えます。</p> <p>まず、教職員や保護者の責任問題についてですが、例えば、夏休み期間中、全てのプールを開放するのではなく、今週は東小田小学校、次の週は中牟田小学校など、隔週とか期間とか時間帯を設ける、教職員や保護者の負担を少なくするには、町民プール同様、管理人・監視員を雇用して対応するなど、プール再開に向けて取り組むべきと考えます。9月の決算審査特別委員会で質問しましたが、町民プール管理人・監視員は、1日6人から7人体制で実施していると答弁がありました。予算や人員の確保など大変であることは理解しますが、再開に向けての考えはあるのか伺います。</p>
議 長	教育課長
教育課長	<p>お答えいたします。</p> <p>水泳事故防止のための管理・指導体制につきましては、水泳指導者としての条件として、指導法・救助法の講習の必要が設けられており、かつての保護者の監視では子どもの安全が確保できないことから、県下のほとんどの学校が行っておらず、本町におきましても、従来の監視体制では今後も学校のプールを開放することは難しいというふうに考えておるところです。</p>
議 長	木村議員
木村議員	<p>難しいということなんですけれども、私一議員の動きですが、朝倉市・郡の議員で、夏休み期間中のプール再開に向けて、県に要望すべく動いていることを付け加えます。</p>

	次に、プールの行き帰りの熱中症対策に、チョイソコちくちちゃんの利用は可能かについて質問します。 また、可能であれば、予約集合場所等の説明をお願いします。
議 長	企画課長
企画課長	企画課からお答えいたします。 チョイソコちくちちゃんの利用にあたっては、会員登録と予約が必要です。会員登録はどなたでも申請できますが、小中学生は保護者の同意が必要です。また、予約につきましても、電話及びインターネットが利用できます。 議員ご質問の夏休み期間中の利用につきましては、通常の手順でご利用いただいで可能です。 ただ、複数人での利用の場合、人数にもよりますが、それぞれが最寄りの乗降所で予約をすると予約が取れない場合もあります。予約は利用の1週間前から30分前までで、一般の利用も増えてきておりますので、複数人での利用の場合は、効率的に乗り合わせるためにも、プールへの行き帰りの利用者を把握された上であらかじめご相談いただけたらと思っております。
議 長	木村議員
木村議員	詳細な説明ありがとうございます。PTAの役員の方に聞きましたら、プールだけではないんですが、通学要件以外でも利用できるのであれば助かりますので利用したいとの返答でしたので、よろしく願いしておきます。 今回のプール再開についての質問ですが、先ほど難しいという話でしたけども、私も一部のPTA役員や保護者の方の意見や要望を聞いての質問になっていますので、来年度以降、再度、保護者や学校運営協議会など、いろいろ物理的な問題があると思いますが、多くの方々に意見を聞かれてはと思いますが、どのように対処されるか伺います。
議 長	教育課長
教育課長	お答えいたします。 学校のプール開放については、学校の教育活動としてだけではなく、町としての学校施設の活用という視点から、学校運営協議会や保護者の意見も聞きながら、今後研究してまいりたいと考えております。
議 長	木村議員
木村議員	保護者の方から、ぜひプール再開をという声も聞いていますので、できる限り再開する方向で意見を聞いていただけたらと思います。よろしく願いしておきます。 次に、自治公民館等を活用する取り組みについて伺います。 夏休み中、エアコンが整備された公民館を利用して、勉強、工作や体験学習などを週に複数回実施したいとの声があります。今年実施された方もおられます。活動に対しての支援はあるのか、また、支援の内容について説明をお願いします。
議 長	生涯学習課長
生涯学習課長	お答えします。 教育委員会では、自治公民館の開放を中心とした地域住民が自ら実践する子ども広場づくり等の推進を支援するため、筑前町自治公民館子ども広場づくり等推進事業で助成金の交付を行っています。 対象事業は、自治公民館として、子どもの居場所づくりや様々な文化、スポーツ、ボランティア等の体験活動を行うなどの場合でございます。 ご質問である夏休み期間中の子ども広場づくり等につきましては、1回の助成金限度額は1万円、年間5万円限度に該当すると思えます。 以上でございます。

議 長	木村議員
木村議員	<p>町としても、今言われた支援策のほか、青少年体験活動事業や通学合宿事業など実施されておられますが、年間を通した公民館活動や、1回限りの支援が5回までとされており、青少年体験学習事業や通学合宿事業は高学年を対象とした事業です。私は、夏休みに全学年を対象とし特化した支援策を設けるべきと考えます。地元を例に出しますが、夏休みに公民館にて、防災士の方々が中心になり、防災訓練を兼ねてイベントを開いています。多くの子どもたちが集まって、地区以外にも、私、中牟田町なんです。地区以外にも友達同士たくさん子どもたちが来て、友達同士楽しく遊んでいます。しかしながら、1日限りです。約40日ある夏休み期間を子どもたちにどのように過ごさせるかは大人の責任と考えます。</p> <p>今年実施された方々に伺いますと、公民館使用料や工作の材料代などを支援してもらえれば、夏休み期間の公民館活動を増やし、子どもたちの学力・体力向上につなげたい、笑顔が絶えない子どもたちを見ていきたいと言われていています。筑前町全体で取り組むことが理想ですが、各自治区の都合もあり、難しいと考えます。ですので、できるところからやれるところから始める。そして、徐々にその場が広がり、実施する自治区が増えていけばよいのではと思います。</p> <p>夏休みに公民館などを利用して活動される方々に対し支援策を設けるべきと考えますが、教育長の見解をお願いします。</p>
議 長 教 育 長	<p>宮崎教育長</p> <p>お答えいたします。</p> <p>夏休みは、子どもたちの学びと生活の場が学校から家庭・地域へとバトンタッチすることで、家庭や地域だからこそできる体験、自分が興味を持った遊びとか体験を行うことが夏休みの醍醐味でございました。私の夏休みも、朝6時に起きてラジオ体操で始まる。ラジオ体操に行きたいというよりも友達と会いたいからラジオ体操に行く。その後、家に帰らずに、神社や公民館でセミ捕り、1回家に帰ってちょっと勉強してプールに行く。夕方からは友達とまた遊んで、日頃はできない、友達の家に泊まってご飯を食べて、夜は花火を上げたり肝試しをしたり、そういった歌に出てくるような夏休みでございました。</p> <p>しかしながら、家庭や地域社会の環境が変わって、また、猛暑といった自然環境も変化しております。私が育った夏休みとは状況が異なっていることは実感しております。</p> <p>せつかくの夏休みでございます。子どもたちが目標を持って過ごせるように、学校ではできない体験ができるように、地域の皆様が主体的に子どもたちをご支援いただくことは大変ありがたいことだと考えているところです。</p> <p>先ほど課長が答弁いたしました事業は、自治公民館子ども広場づくり等推進事業でございまして、その実施要項に書かれている基準でございます。その助成の対象となる内容を実施要綱に定めておりますけれども、現状やニーズに応じて、その実施要項に定めた活動内容や日数が改善または拡充できるのか、今後検討してまいりたいと考えておるところでございます。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	木村議員
木村議員	<p>ぜひ、その要綱の中で使えるように、支援策を考えていただきたいと思います。よろしくをお願いします。</p> <p>次に、2学期制導入の考えについてです。</p> <p>2学期制導入の考えは、2002年度から学校の完全週5日制が始まり、それに伴い授業日数が40日ほど減少することになり、そこをどのように確保するかで考</p>

	<p>えられたと伺います。</p> <p>私の考えは、近年、温暖化の影響で、夏は猛暑、酷暑が続いています。暑さ対策として、夏休みを短縮して、学校プールの利用時間を増やし、エアコンが効いた教室で勉強すれば、体力・学力ともに向上すると考えます。また、2学期制は、教職員の負担軽減にもつながると聞いております。</p> <p>しかし、ところによれば、2学期制を導入したが、3学期制に戻した学校もあると聞いております。</p> <p>これまで四季がはっきりとありましたが、近年、春と秋を感じる時間が少なくなりました。そして、夏は猛暑、酷暑の日が長く続いています。また、働き方改革や教職員の負担軽減、子どもたちの多様性など、教育を取り巻く環境は大きく変化していると思っています。</p> <p>我が町の教育理念の中に、特色ある教育を目指すとあります。ぜひ周りに感化されることなく、特色ある教育環境をつくっていただきたいと思います。導入に対してメリット・デメリットあると思いますが、見解をお願いします。</p>
議 長	宮崎教育長
教 育 長	<p>お答えいたします。</p> <p>2学期制につきましては、導入している小中学校は、福岡県全体では2割程度でございます。3学期制と比べてメリット・デメリットがあると理解しております。</p> <p>2学期制は、7月、12月の慌ただしさがなく、特に先生方の立場からは、通知表を作成することが軽減されること、また、始業式や終業式とその前後の準備等が少なくなって、授業時数が確保できるよさがございます。</p> <p>一方で、夏休み、冬休み前に通知表による評価が受けられませんので、長期休業中の学習や生活の目標を子どもが持ちにくかったり、特に中学校3年生の前期の評価が9月から10月頃に出ますので、その段階では高校受験への対策が難しくなったりするといったことが考えられております。</p> <p>また、夏休みの短縮につきましても、教職員の負担軽減になるのかということは賛否が分かれるところでございます。また、子どもたちの登下校時の熱中症も懸念されており、夏休み短縮については賛否が分かれています。</p> <p>本町におきましては、そのような2学期制、3学期制、それぞれのメリット・デメリットを考えまして、現在のところ3学期制を継続していくこととしているところでございます。</p> <p>以上です。</p>
議 長	木村議員
木村議員	<p>この2学期制というものを考えたときに、私もいろいろ調べてみたんですが、本当メリット・デメリット、本当にあるなと思っています。2学期制を導入すべきであるとは思っていません。この筑前町の環境に合った、教育環境に合った制度を、今後も続けていただければと思っています。よろしくお願いします。</p> <p>次の質問に入ります。</p> <p>質問に入ります前に、一言。9月議会で提案され可決されました高精度・高機能基地局整備についてですが、農家の人たちは本当に大変喜んでおられます。この基地局を使用した場合、農作業が軽減されるだけでなく、作付の面積が1割程度アップするとのこと。今のところ、団体や個人で20件が、DX事業を活用し、申請されているとのこと。筑前町の農業が大きく変わることを期待します。町長をはじめ、担当課の方々には、農家を代表してこの場をお借りしお礼を申し上げます。ありがとうございます。また、担当課に聞きますと、登録料、使用料、無料</p>

	<p>です。もう1回言わせてください。登録料、使用料、無料です。来年4月から運用開始と伺っております。楽しみにしているところです。</p> <p>それでは、また質問に入らせていただきます。行政組織の在り方について質問します。</p> <p>現在、筑前町は微増ではありますが、全国の町から比較すれば増加傾向にある数少ない町です。また、筑前町に、20歳以下の人口は6,000人を超えていると聞いています。また、ネットで見ますと、人口もかなり外国人の方も増えているというふうに記載しておりました。</p> <p>そのような中で、筑前町を選んで転入された方から、なぜ本庁で申請手続きが全て完了できないのかと聞かれましたので、改めて本庁支所の在り方について伺います。</p> <p>まず、本庁に全ての業務を集約する考えについてですが、本庁に全ての業務が集約できていない理由、要因は何か、伺います。</p>
議 長	総務課長
総務課長	<p>お答えいたします。</p> <p>議員お尋ねの本庁に全ての業務が集約できていない要因は何だということでございます。</p> <p>合併以降これまでも組織機構改革を検討協議するにあたり、業務を全て本庁に集約することを前提にこれまで検討協議はしたことはございませんので、お尋ねに合致するお答えはございませんが、仮に、現在の全ての業務を本庁に集約し、住民サービスの向上を図ろうとも、既存施設では配置スペースに限りがありますので、全ての組織を配置することは現時点困難でございます。</p> <p>また、本庁に集約したと仮定しても、既存施設の配置スペースの問題もありますが、全ての職員等も本庁に集約するとともに、お客様も本庁に来庁されることとなります。そうなりますと、既存駐車場での対応も困難と考えられる状況でございます。このことから現時点で全ての業務を現在の本庁に集約することはハード面で困難と考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	木村議員
木村議員	<p>確かに、今の現状では、箱物や駐車場など、集約するには物理的に困難であることは理解できます。いつになるか分かりませんが、全ての業務を集約された庁舎については将来に託したいと思っております。よろしく願いしておきます。</p> <p>次の質問に行きます。</p> <p>合併して20年がたち、近年の人口増傾向は、インフラ整備や教育環境など進化したことが大きな要因であると考えます。それも、町長や教育長をはじめ、執行部の皆様の結果であると感じいたします。</p> <p>しかしながら、行政組織はあまり変化していないのが現状です。合併して20年がたち、町民に対して利便性やサービス向上を考える時期が来ているのではないかと思います。見解をお願いします。</p>
議 長	総務課長
総務課長	<p>お答えいたします。</p> <p>これまでの一般質問ほかでもお答えしておりますけれども、これまでも合併以降、そのときの社会情勢等に合わせ、組織機構改革は行っております。それに併せて住民サービスの向上に努めているところでございます。</p> <p>現在は、議員がおっしゃいますように、全国の多くの自治体で人口減少という状況の中、本町においては増加しており、ご承知のとおり3万人を超えている現</p>

	<p>状でございます。</p> <p>それに伴い、社会情勢の変化に伴う行政へのニーズへの多種多様化、災害対応など、行政を取り巻く環境はこれまで以上に速いスピードで変化し続けていることから、課題に取り組んでいる状況で、現在具現化とはなっておりませんが、住民サービスのさらなる向上、効率的な事務処理遂行及び職場環境改善向上等に向けた組織機構改革の検討を継続して行っているところでもございます。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	木村議員
木村議員	<p>次の質問に行きます。</p> <p>総合支所は、築50年以上がたち、老朽化が進んでいる現状の中で、今までもいろいろと議論されてきましたが、結論が見えない状況にあると感じています。また、支所機能についてですが、全ての申請手続きはコンビニ、パソコン、スマホなどでいずれできる 때가来ると思っています。</p> <p>私は支所廃止とは考えていませんが、ただ、時代の変化に伴い、必要とする物事をしっかりと整理して対応していくべきと考えますが、今後の見解を聞かせてください。</p>
議 長	総務課長
総務課長	<p>お答えいたします。</p> <p>議員お尋ねの件、それから議員が今おっしゃっておられることも理解するところでもございます。現在の総合支所につきましては、昭和42年に三輪町役場として建築されまして、耐震補強を行いまして、57年経過している建物です。</p> <p>合併以降、総合支所につきましては、平成26年2月に、総合支所の在り方について答申がありました。そして、令和5年3月には、総合支所の埋蔵文化財展示等多目的施設への転用について、課題となっている文化財展示施設の設置、学童保育の拡充、三輪地域における避難所の拡充の解決手法としてふさわしいものであるとの答申がなされているところでもございます。</p> <p>これを踏まえまして、現在の支所窓口機能を含め、埋蔵文化財展示等多目的施設整備に向けた具体的な方向性等を検討中でございます。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	木村議員
木村議員	<p>2年ぐらい前でしたよね、この話が出たのは。まだ検討中ということで理解してよろしいでしょうか。分かりました。</p> <p>次に行きます。</p> <p>ワンストップに向けての取り組みですが、先ほどの説明で、現状の環境において物理的に全てが集約することは難しいということは理解します。私は、申請手続きの一部ですが、住民課、健康課、こども課、福祉課の4課はワンフロアで済むことが最善ではないかと考えます。</p> <p>そこで、福祉課を本庁舎に移転することはできないか伺います。</p>
議 長	総務課長
総務課長	<p>お答えいたします。</p> <p>これまでも同じようなお答えをしておりますけども、組織機構改革を考えるにあたりましては、基本的な考え方は変わっておらず、住民サービスの向上、効率的な事務処理遂行及び職場環境改善向上等に向けた組織機構改革の検討としており、このことを念頭に、健康福祉関連部門を本庁に集約することを含め、配置などを検討しているところでもございます。</p> <p>その一つとして、こども課につきましては、子どもに特化した業務を令和6年度</p>

	<p>から集約し、コスモスプラザに配置し、住民サービスの向上に努めているところでもございます。</p> <p>議員お尋ねの福祉課を本庁舎への移転につきましては、配置をすることによりまして、現在本庁配置の組織、その他の組織についても、住民サービスの機能を低下させないような配置も考えなくてはなりません。各組織の配置する既存の公共施設でのスペースや駐車場も限られておりますので、組織の配置先や駐車場でのハード面での課題に対する解決策を先に見い出さなければ前進しませんので、この検討を行っている状況でもあり、このことが現在直面している大きな課題でもあることから、具現化にはまだ時間を要するところでもございますが、継続して取り組みを進めたいと考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	木村議員
木村議員	<p>様々な問題があるということはよく理解できます。これからも、先に向けて検討していただければと思います。これからも、町民に対して利便性やサービス向上を考え対応していかれることを期待し、私の一般質問を終わります。</p>
議 長	これで、木村和彦議員の一般質問を終わります。
休 憩	
議 長	<p>ここで休憩をいたします。</p> <p>午後1時から再開をいたします。</p> <p style="text-align: right;">(1 1 : 4 3)</p>
再 開	
議 長	<p>休憩前に引き続き、会議を開きます。</p> <p style="text-align: right;">(1 3 : 0 0)</p>
議 長	1 1 番 山本久矢議員
山本久矢議員	<p>通告書に基づき、質問を行いたいと思います。3点ほどです。</p> <p>青少年育成のあり方及び交流事業についてということで質問をさせていただきます。</p> <p>まず、自分が議員になる前からの活動であります。福岡県少年の船、また、甘木朝倉少年の船に関わって、もうウン十年と、計算していただければ分かると思いますが、活動してまいりました。毎年毎年、新鮮な気持ちを味わっていました。夢を抱き、将来に向かって羽ばたく人材の育成と、次代を担う子どもたちが健やかに成長することは、現在筑前町の願いだと思っています。筑前町が合併する前からずっと朝倉少年の船も関わってきております。</p> <p>そこでお尋ねをしたいと思います。</p> <p>(1) 現在の小中学生が校区を越えた交流事業はあっているのか、行っているのかということに対して、お答えをお願いいたします。</p>
議 長	生涯学習課長
生涯学習課長	<p>お答えします。</p> <p>生涯学習課では、小中学生を対象とした事業として、通学合宿、6年生交流会、子ども育成塾、大刀洗平和記念館での中学生ボランティアガイド、子どものつどいなどを実施しております。</p> <p>特に6年生交流会は、中学校への進学前に、新たな交友関係を築き、豊かな人間形成を育むことや、仲間意識を育むための交流を図ることで、中学校進学後の円滑な人間関係を築くことを目的としていますが、ほかの事業でも校区を分けることなく募集を行い、各事業のプログラムの中で子どもたちが話し合い、助け合いながら、かつ体験活動等を行うことで、校区を越えた交流もできております。</p>

	以上でございます。
議長	山本久矢議員
山本久矢議員	<p>分かりました。</p> <p>もうちょっと交流事業、また、夜須高原青少年自然の家で交流等もあっていると思いますが、日にちが短い、1泊2日とか、通学合宿でも短いですね、日にちは3日ですかね。子どもたちに料理をさせる、炊事をさせる、でもあそこにはレストランが、食堂がありますので、それで子どもたちは夜は頂くというような形でやっていると思います。そこで、子どもたちが夢を抱き、将来に向かって羽ばたく人材の育成と、先ほども申しましたが、筑前町の願いだと思っています、船の事業だけではなく、つばさ等もありますが、全体として涙あり笑いであり感動ありの本気の活動は壮大なドラマを見ているようです。自分も参加して、その中におりましたので、そう感じています。成長していく子どもたち、乗り越えていく若者たち、いつも感動を分けてもらっています。筑前町をはじめ多くの方々に支えられて私たちの活動ができたことに心から感謝を申し上げますとともに、甘木朝倉少年の船の活動がこれからも生きる若者たち、子どもたちの成長の場になることを願っています。現在、もう少年の船、フレンドシップ等は行っていませんが、そのように自分は感じております。</p> <p>そこで、2番目のお尋ねに入ります。</p> <p>あさくら少年の船事業は現在なくなっておりますが、それに代わる事業はあるのでしょうか。恐らくないと思っておりますが、どうでしょうか。課長、お答え願います。</p>
議長	生涯学習課長
生涯学習課長	<p>お答えします。</p> <p>長年、甘木朝倉の広域で実施しておりました甘木朝倉少年の船は、平成15年度からはフレンドシップと名称を変更し、平成24年度まで実施しておりました。</p> <p>当時の課題としましては、指導員等スタッフや参加者の確保が難しくなってきたことなどが挙げられております。</p> <p>あさくら少年の船事業に代わる事業につきましては、平成25年度以降実施されておりません。平成25年度以降は、各市町村が、通学合宿や体験活動などの取り組みをそれぞれで充実させることでやっていくということで確認をしてきたところでございます。</p> <p>以上でございます。</p>
議長	山本久矢議員
山本久矢議員	<p>分かりました。</p> <p>その当時も自分もおりましたので、そういう事情も分かっておりますが、まだ続けてほしかったな、続けたいなと自分自身思っております。</p> <p>子どもたちを取り巻く環境や子どもたちの生活について、マスコミや報道機関団体をはじめ各分野の様々な場所で論議されております。甘木朝倉においては、いじめや不登校の予防・解決に向けた取り組みはもとより、子どもたちの生きる力を育む取り組み、社会全体で協働して青少年育成が求められております。</p> <p>このような中で、自分は、甘木朝倉の子どもたちの健やかな、筑前町の健やかで心豊かな成長と友情づくりを願い、また、子どもたちと一緒に汗を流し、共に笑い合い涙して、心を一つにできる何らかの活動がしたいと願うものです。そういう思いで、心情で、甘木朝倉少年の船を実施していました。同じようなことの繰り返しですけれども、「出会い、友情、平和を求めて」をメインテーマとした少年の船の活動は、様々な人に巡り合い、友情を育み、感動体験を体感でき得る場所でもあると思</p>

	<p>っております。</p> <p>少年の船のスタッフの中には、我が町筑前町の、お名前は申し上げませんが、10名近くのスタッフ経験者、現在の課長さん、係長さん、そういうスタッフの職員の方がおられます。また、同じ議員仲間で、副議長の寺原副議長も少年の船の団長を経験されております。その応援といたしまして、私もひょっこりお邪魔してという感じで、子どもたちにサプライズ的なことで参加を、お手伝いをいたしました。少年の船でしかできない出会い・感動を体験し、船内研修や参観研修を通じて、仲間の大切さ、そして自然のすばらしさを共に学び、子どもたちがにこにこ輝く、そういう子どもたちを育ていきたいと現在も思っております。そして、ふるさと筑前町に、誇りを持ってこれからの時代を引っ張っていかたくましいリーダーに育てほしいと願っております。また、少年の船の活動を通じて築き上げた仲間同士の絆が一生ものになることを願うものです。</p> <p>少年の船が現在もうできないというような状況ですけども、私はまだ諦めてはおりません。資金面、甘木朝倉のことに關すれば、長野財団さん、長野インテリアの財団さんのほうから甘木朝倉に多額のご寄附を頂いて、その一部を頂き、少年の船フレンドシップに使わせていただいております。</p> <p>資金面、いろいろありますが、また、我が町だけの、独自の、また、東峰村さんと共同のそういった研修、3番目の筑前町・東峰村共同青少年育成事業はできないかということにつながります。その点、課長、お答えをお願いいたします。</p>
議 長	生涯学習課長
生涯学習課長	<p>お答えします。</p> <p>筑前町・東峰村の共同での青少年育成事業ができないかというご質問につきましては、同じ朝倉郡の東峰村と共同での青少年育成事業につきましては現在実施しておりませんが、今後どのような事業ができるか、東峰村とも協議していきたいと考えます。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	山本久矢議員
山本久矢議員	<p>よろしく実現できるように願っております。</p> <p>若干前後いたしますが、フレンドシップです。少年の船でなくフレンドシップに変わってから、古賀久元議員さんがおられました。もう現在亡くなられておられますが、その方を団長に迎え、屋久島へ研修へ行ってまいりました。その当時、古賀久元団長で山本久矢副団長で行ったわけなんです、やっぱり、みんな各家庭、いろんな経済状況等、いろいろありますので、参加費はその当時、5万5,000円前後やったですね。古賀久さんとお話をして、どげんかならんとやろうかなと、予算をちょっと取ってくれんですかと話したときに、参加者の負担が大きいから、少しでも多くの補助を町から予算できんですかと言った場合に、古賀議員が僕がちょっと頑張ってみようということで、フレンドシップ、予算計上されるようになりました経緯があります。フレンドシップがなくなるまで、子どもたちの各家庭の軽減といえますか、参加者の幾らか負担が少なくなるようになって、子どもたちがいろんな活動ができたわけです。</p> <p>ですので、今後とも、今検討、若干の余地があると思いますので、予算面は、またいろんな筑前町にも企業がありますし、その企業さんたちと協力をお願いしながら、また、もちろん参加者には負担金が要りますけども、そこら辺の予算計上も、子どもたちのために、将来の筑前町を担っていく子どもたちを育てていくというか、育成事業をやってほしいなと思っております。ぜひ実現に向けて頑張ってくださいと、頑張りたいと思います。実現できるよう、よろしく願いいたします。</p>

	私の一般質問を終わります。
町 長	<p>1点お答えをいたします。</p> <p>シップのそういった研修を考慮しておられますけども、また新たな、子どもたちの志を養うような仕掛けも起きております。小郡市の市長から私のほうに、ぜひ、小郡市、大刀洗町、筑前町、近接しておりますので、こういった地域で子どもたちを集めて、志ある子どもを育てようじゃないかというような呼びかけがございました。私も、ぜひ出てきてくれということで、小郡市の七夕会館に出向きましたけれども、本町からも参加しておりました。その子が優勝いたしました。その子は、うちの広報にも紹介したところでもありますけれども、そういった呼びかけもあってありますし、もちろん、東峰村とも大事ですけども、そういった近接の自治体からも呼びかけには応じていくべきじゃないかと思ったところでもあります。非常にすばらしいことです。実業家の話を聞きたい、松下村塾で山口も行きたいと。そういったことで一切言っておられましたし、その子もきちっとした発表をやってくれて、こんなすばらしい子が育っているんだなと実感したところでもあります。これも継続してやられるそうでありまして、県もバックアップしておりますので、こういった事業についても本町からも参加することは一つの少年育成だとも考えるところでもあります。</p> <p>よろしく申し上げます。</p>
議 長	山本久矢議員
山本久矢議員	<p>ありがとうございました。</p> <p>今後とも、青少年育成に力を入れていただきたいと思っております。</p> <p>これで私の質問を終わります。</p> <p>ありがとうございました。</p>
議 長	これで、山本久矢議員の一般質問を終わります。
休 憩	
議 長	<p>ここで休憩をいたします。</p> <p>1時30分から行いたいと思います。よろしくお願いいいたします。</p> <p style="text-align: right;">(13:20)</p>
再 開	
議 長	<p>休憩前に引き続き、会議を開きます。</p> <p style="text-align: right;">(13:30)</p>
議 長	8番 山本一洋議員
山本一洋議員	<p>通告に従いまして、教員の働き方改革と子どもたちを取り巻く状況についてお尋ねをしておりますので、よろしくお願いをいたします。</p> <p>昨今の新聞記事やマスコミには、教員の働き方改革や教員の過労の実態といったことや、児童生徒のいじめや不登校の問題などが大きく取り上げられています。</p> <p>2023年度に、全国の小中学校で不登校の児童生徒は11年連続で増加し、全体の3.7%にあたる34万6,482人で、最多を更新したと新聞に載っていました。</p> <p>また、福岡県教育委員会が報道した記事が新聞に載っていましたが、不登校の児童生徒の数が、2023年度は、公立小学校で7,306人、前年比1,528人増、公立中学校では1万553人、前年比1,388人増と書かれておりました。本町も他人事ではなく、相当数の子どもたちがいるのではないかと思います。</p> <p>先日、文教厚生常任委員と不登校の児童生徒を持つ保護者の方々との意見交換をする機会がありましたが、その中で、保護者の方々の大変な悩みや思いを聞かせていただきました。</p>

	<p>不登校となった要因はいろいろあるとは思いますが、まず、筑前町の現状と課題について質問をしながら、私が考えていることへとつなげての質問をしていきたいと思しますので、よろしくお願いをいたします。</p> <p>まず、最初に、不登校について様々な要因があるとは思いますが、不登校の定義はどのようなものかをお尋ねいたします。</p>
議長	教育課長
教育課長	<p>お答えいたします。</p> <p>不登校は何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるため、年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由によるものを除いた者と文部科学省より定義をされております。</p> <p>以上でございます。</p>
議長	山本一洋議員
山本一洋議員	<p>定義については、私もネットで調べましたら、そのように、今申されたように書いてありました。</p> <p>定義については分かりましたが、それでは、筑前町の児童生徒の状況についてお尋ねをいたします。できれば、過年度との比較も含めて、不登校の児童生徒数がどのように推移をしているのか、また、小中学校での状況をお知らせください。そして、小学校では、低学年と高学年ではどちらが増えているのか。学校区別にはどのようなになっているかをお尋ねいたします。これは後にでも出てきますけれども、行きしぶりといった不登校初期化の対策についても関係いたしますので、回答をよろしくお願いいたします。</p>
議長	教育課長
教育課長	<p>お答えいたします。</p> <p>本町の小中学校における不登校児童生徒の状況については、令和5年度は、小学校が34名、中学校が80名であり、令和3年度からの3か年の推移は、小学校はほぼ同数ですが、中学校は増加傾向にあります。</p> <p>小学校では、中・高学年、4年生・5年生に増加傾向が見られ、学校別では、学校規模が大きいほど不登校児童は多くなりますが、増加の割合については、学校規模との相関は見られない状況でございます。</p> <p>以上でございます。</p>
議長	山本一洋議員
山本一洋議員	<p>小学校で34人という話でございました。ちなみに私は50人という話も聞いたことがございますけれども、教育委員会が言われる34人からいきましても増えてきているというような状況のようでございます。</p> <p>それでは、続いて、児童生徒が安心して学べる居場所づくりや教室に入れない子どもの状況についてお尋ねをいたします。</p> <p>町では、令和6年度より校内教育支援センターを各中学校で設置しておりますが、その状況についてお尋ねをいたします。</p> <p>また、先日、文教厚生常任委員会でも東小田小学校に視察に行きましたが、その折、教頭先生から東小田小学校の取り組みとして、ステップルームという形で校内支援センターを設置しているとの説明がありました。今後はほかの小学校にも校内教育支援センターを設置されるのかをお尋ねいたします。</p>
議長	教育課長
教育課長	<p>お答えいたします。</p> <p>本年度開設した校内教育支援センターには、各中学校とも20名程度の生徒が入</p>

	<p>級しており、毎日10名程度が利用しております。</p> <p>生徒一人ひとり自分の時間割を校内教育支援センターのマネージャーや担任と相談の上決定し、教室とのオンライン授業や教科担任による授業、数学や英語等の問題を解き、分からない内容の指導を受けるなど、個別の学習に取り組んでおります。</p> <p>また、学習以外でも、他の友達と交流したり、1人のスペースを利用して心を落ち着かせたりするなど、学びの保障と安心できる居場所として活用しております。</p> <p>来年度につきましては、必要な小学校において空き教室を利用した校内教育支援センターを教育委員会が設置し、子どもの不安や悩み、相談に寄り添い、支援することができる人材、学習指導等に必要な知識や技能・経験を持った人材による持続可能な運営ができるよう、現在準備をしているところでございます。</p> <p>以上でございます。</p>
議長	山本一洋議員
山本一洋議員	<p>校内教育支援センターの取り組みについては、必要な学級・学校というようなことも出てきましたけれども、分かりましたが、これまで教育支援センターに通っていく中で通常学級に戻れた事例がありましたらお知らせいただきたいと思っております。</p>
議長	教育課長
教育課長	<p>お答えいたします。</p> <p>校内教育支援センターに入級している生徒の中には、昨年度ほとんど登校することができなかつたのが、本年度、毎日、校内教育支援センターで学ぶことができている生徒、校内教育支援センターを利用しながら、給食をみんなとランチルームで食べることができたり、徐々に教室で授業に参加できるようになったりする生徒など、教室に向かう歩みの速さは一人ひとり異なりますが、校内教育支援センターの存在は教室に入りにくい子どもにとって大きいと確信をしているところでございます。</p> <p>以上でございます。</p>
議長	山本一洋議員
山本一洋議員	<p>徐々に参加をしている子どもたちが増えてきたというようなことで理解をしますが、私は不登校生徒を減らす取り組みとして、学校を休み始めた不登校初期段階での対策はないかというふうなことの、今後、質問に移ってまいります。前にも質問いたしましたけれども、私は、町内の生徒数の多い学校と少ない学校では、不登校の生徒の数に当然差があるというふうに思っています。その理由としては、教育環境の問題や、教員と子どもとの関わりを持つ時間が多い少ないなど関係しているのではないかと考えているからです。</p> <p>そこで、私は、不登校児童の早期支援策として、子どもが学ぶ教育環境を変えるためにも、短期的でも町内の学校を選択できるとする考え方もあるのではないかと考えますが、教育委員会の見解をお尋ねいたします。</p>
議長	教育課長
教育課長	<p>お答えいたします。</p> <p>本来在籍すべき学校以外の通学については、保護者の申し立てがあり、相当の理由がある場合には認めているところでございます。</p> <p>また、本年度、県教育委員会の委託事業を受け、福岡県立大学から効果的な教育支援センターの運営について助言を受けておまして、その一つとして、他の学校の校内教育支援センターへの入級について研究をしているところでございます。</p> <p>学校に登校する、教室に向かうために、子どもたちの状況により様々な学びの場の選択肢を整備することは重要だと考えております。</p> <p>以上です。</p>

議 長	山本一洋議員
山本一洋議員	<p>他の入級の研究というものをさせていただいているようですけれども、ぜひとも前に進めてもらいたいというふうに思います。</p> <p>私は、不登校の児童生徒をなくす取り組みは、学校教育の在り方を問い直すことであると考えています。その意味でも、今後とも不登校問題対策に対して取り組んでいただくようによろしくお願いを申し上げたいというふうに思います。</p> <p>次に、教員の働き方改革の一つとして、時間外勤務の状況について質問いたします。</p> <p>以前にもこの質問をしましたが、そのときの回答では、管理職による帰宅指導がされており、改善されたと聞いておりました。しかしながら、私は時々町内の学校の周りを通ることがありますが、ほとんどの学校の職員室と思われる部屋に、午後7時でも8時でもまだ電気がついています。本当に教員の時間外勤務の解消はできているのかと思っています。現在はどのようになっているかをお尋ねいたします。</p>
議 長	教育課長
教育課長	<p>お答えいたします。</p> <p>時間外勤務の状況につきましては、8月を除いた月の平均が各学校40時間から50時間程度であり、昨年度と比べると改善しているとは言えない状況でございます。</p> <p>先生方の出退勤時間の管理は校務支援システムで行っており、一人ひとりの月ごとの超過勤務時間につきましては、校長も教育委員会も把握をしております。常態化している先生には、校長が面談によりタイムマネジメントや業務の効率化についてアドバイスを行ったり、定時退庁日には職員室のほうも呼びかけたりしているところでございます。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	山本一洋議員
山本一洋議員	<p>前回よりも改善をしていないというようなことの回答だと思いますが、私は、時間外勤務が多くて、先生方は大変疲れておられるというふうに思っています。一人ひとりの子どもたちと関わる時間が持てているのかなとも思っています。これは私1人ではないと思います。</p> <p>そこで、先生方が、休み時間などを通して、例えば、昼休み、放課後の時間帯など、子どもたちと関わる時間が取れているのかをお尋ねいたします。</p>
議 長	教育課長
教育課長	<p>お答えいたします。</p> <p>各学校の先生方は、休み時間も放課後も、子どもたちと遊んだり部活動をしたりといったことはもちろん、授業の準備や評価、補充学習、児童会や生徒会活動等も含め子どもと向き合っておりますが、生徒指導上の問題や保護者への対応等が重なると、子どもと向き合う時間が十分に確保できないということもございます。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	山本一洋議員
山本一洋議員	<p>私は、運動場で休み時間などを利用して、先生と子どもたちが一緒に走り回って、もう笑いが絶えない、そんな運動場の光景を昔は見ていたような気がします。今はそれができていないのが少し残念なところもありますけれども。</p> <p>私は、これまでの質問で、先生方は学級における児童生徒の指導や事務処理などの多忙さにより、疲れや悩みを持っておられ、児童生徒のSOSのサインの見落としや不安や悩みなどいろんなことに気づく時間を持たずに、その葛藤で苦しんでいるのではないかと心配しています。児童生徒はもちろん大事ではありますが、そ</p>

	<p>れと同時に指導にあたる先生方も大事です。</p> <p>そこで提案ですが、今、全国では、1人の先生が1クラスを見る固定担任制とは違い、複数の教員がローテーションで学年全体を見るチーム担任制が導入され、成功事例が増えています。中でも、神戸市教育委員会では、令和5年4月は小学校2校、中学校2校にモデル校として設置をしておりましたが、令和6年度には小学校が5校、中学校は3校に増やすことになっているようです。効果としては、児童生徒、保護者にとって相談できる教職員が増え、安心感が高まったことや、教職員が児童生徒の変化に気づく機会が増え、早期かつ丁寧な対応ができることなどが挙げられています。</p> <p>本町でもこのようなチーム担任制の導入を考えたかどうかと思いますが、教育委員会の考えをお尋ねいたします。</p>
議 長	教育課長
教育課長	<p>お答えいたします。</p> <p>一つの学級を1人の学級担任で指導するのではなく、複数の教員で学習指導や生徒指導を行う、いわゆるチーム担任制につきましては、本町におきましても、各学校の教員配置等の状況に応じた取り組みを進めているところでございます。</p> <p>その目的は、複数の教員で指導することで、教員にとっては業務の軽減や心理的な不安が解消されること、児童生徒にとっては、一人ひとりが持つよさを様々な教員の視点から評価されることができていることにあります。</p> <p>中学校は教科担任制であるため、従来から複数の教員がそれぞれの学級、一人ひとりの生徒への指導ができる体制ですが、今後は朝の会や帰りの会、学級活動等、担任を変えて行うことに取り組むことも考えております。</p> <p>一方、小学校は学級数により教員の配置が異なるため、大規模校では中学校のように複数の教員で指導が可能でございますが、規模が小さくなるほど難しい状況でございます。そこで、英語など特定の教科を指導したり、きめ細やかな指導を行うために配置された教員が複数の学年を指導したり、学級担任同士が、例えば音楽と図工を交換する交換授業などを行っており、今後とも充実させていくこととしております。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	山本一洋議員
山本一洋議員	<p>私がもう何度か教育課長さんともお話をしましたけれども、この神戸だけにとどまらず、全国でもチーム担任制というのがあっています。</p> <p>今の回答からすると、まだまだ私の思いのところに切れ切れていないのではないかと。やっぱり全国はもうチーム担任制に移行しようとしているんですよ。そういう現実をもう少し、よその事例も含めて、もう少し対応していただきたいというふうに思います。まだまだ自分ところの殻から出てくれないような気がします。ぜひとも、全国はそういう波になってきているということも含めて、今後ともお願いをしていきたいというふうに思います。</p> <p>先ほども話がありました教員不足の話があります。これは、数年前から教員不足の話をよく聞きますが、人がいないから補充できないのではなくて、やるとするならどんな方法があるのかを探る必要があるのではないかとというふうに私は思います。期間限定でモデル校を指定しての取り組みとか、例えば学習支援員の配置についてですが、1週間、朝から夕方までの丸1日つける人を探すのは現状無理であるとするならば、午前中とか給食時間までとか、あるいは、毎日が難しければ、2人勤務制の調整をして1週間で2人で担当するなど、教員の負担軽減を図ることができないかというふうに私は思っていますが、どのようにお考えかお尋ねいたします。</p>

議 長	教育課長
教育課長	<p>お答えいたします。</p> <p>文部科学省は、学校教育活動の充実と働き方改革の実現のために、教員業務支援員や学習指導員等を配置しております。来年度も拡充する方向で概算要求に計上しております。その事業を受けることができるように、県のほうにもお願いしてまいりたいというふうに考えております。</p> <p>以上です。</p>
議 長	山本一洋議員
山本一洋議員	<p>いろいろな方法での県の働き方も含めて、要望陳情も含めて、よろしくお願いをしたいというふうに思います。</p> <p>町としても教育環境整備に関しては、教室のエアコン導入や教室の増改築などに予算を投じていただいております。今後は、体育館の冷暖房設備などの課題もあって、町の宝である児童生徒の育成にはお金がかかるというふうに私も思っています。</p> <p>不登校解消に向けた対策や、児童生徒も先生もやればできたを実感する教育ビジョンについて、最後に教育長の見解をお聞きます。</p>
議 長	宮崎教育長
教育長	<p>お答えいたします。</p> <p>ご質問いただきました不登校への対策、それから教員の働き方改革を含めて、子どもも先生たちもやればできた実感できる学校づくりにつきまして、今年度のこれまでの取り組みの手応えと、今後のビジョンを申し上げさせていただきたいと思っております。</p> <p>まず、不登校への対応についてでございますけれども、本年度開設いたしました中学校の校内教育支援センターで学ぶある生徒さんが、夏休みの作文に思いをつづってくれたので、ここで紹介させていただいてもよろしいでしょうか。一部を省略して読ませていただきます。</p> <p>私は、1年生のとき校舎に入ることができず、ほとんど授業を受けることができませんでしたが、行きたい高校が見つかり、登校日を増やして、先生に相談をしました。ですが、なかなか登校できずに1年がたつてしまい、落ち込んでいたとき、先生から支援センターができることを教えてもらい、説明を聞いて、ここなら入れそうだと思い、支援センターに入ることにしました。登校前から体調が悪くなることがあったり、参加しても何もできない日がありましたが、周りの人たちに見守ってもらいながら登校を続けるうちに、だんだん教室や先生に慣れてきて、1人で通えるようになりました。支援センターで話せる友達ができ、一緒に教室の近くへ行ったり、学年集会に参加できてからは、月に1回行っていた病院も二、三か月に1回になり、支援センターに行き始めて、できなくなっていたことや新しいことが少しずつできるようになりました。筑前町のたくさんの大人の方たちが、チームをつくり、生徒たちが安心して学校へ通えるように、考え、取り組んでくれていることを実際に見て、私も将来は子どもたちのことをちゃんと考えてあげられる優しく理解のある大人になりたいなと思えました。こんなに安心して学べる居場所があるので、これからも登校日を増やして、学力を上げられるよう、そしてみんなと授業が受けられる日が来るように、少しずつ目標に向かって頑張ります。</p> <p>本町の校内教育支援センターはまだ生まれたばかりでございます。それでも、この生徒さんのような思いを持ってくれることは大変ありがたく、また、励みになるところでございます。学校という場は、友達や先生など多くの人たちと関わって、様々な体験や経験を通して、実社会に出て生きる力を養うことができるかけがえのない場所でございます。全ての子どもたちが、学校へ登校する、教室で学ぶことが</p>

	<p>できるよう、私は誰もが安心して学べる学校、誰もが今日も学校へ行こうと思う魅力ある学校づくりに今後も取り組む所存でございます。</p> <p>その上で、本年度、県の委託事業により、福岡県立大学からいただいている知見と支援により、来年度は町の教育支援センターと各小中学校がより連携することで、不登校を生まない、1日でも1時間でも学校で教室で学ぶことができる、誰もが誰かにつながっている、そのような筑前町のモデルをつくっていきたいと考えているところでございます。</p> <p>一方、教員の働き方改革につきましては、先生方の負担は時間的なものと心理的なものがございます。経験を重ね、指導力を磨くことで、時間を効率よく使うことができます。また、先生方が、心理的な負担で苦しむことなく、安心して相談ができ、学び合える職員室、子どもや保護者と厚い信頼関係で結ばれ、自信と誇りとやりがいを持って働ける学校でありたいと考えております。</p> <p>この両面を叶えるために取り組みたいことが四つございます。一つは、若い先生方が自分に自信を持てるような、自分の力を磨く研修の充実でございます。二つは、先ほど申し上げた、教育支援センターと学校が連携した不登校や生徒指導の対応、三つに、教科担任や交換授業等のチーム担任制、そして四つに、保護者や地域とのよりよい人間関係づくりのための仕組みづくり、環境整備でございます。以上につきまして、来年度に向け具体的な方策を整えているところでございます。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	山本一洋議員
山本一洋議員	<p>分かりました。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>最初からずっと申し上げておりますけれども、私は不登校の初期の段階での準不登校、15日以上30日未満の子どもたちを準不登校と言うようでございますが、そういう子どもたちの早期の対策をぜひとも頑張ってもらいたい、教育長が言われる筑前町モデルを、ぜひともつくっていただきたいというふうに思います。今後とも教育委員会に頑張ってもらいたいと、努力をしていただきたいというふうに思います。</p> <p>これで私は質問を終わりますが、今後もなお一層、児童生徒や保護者の声に耳を傾け寄り添っていただきながら、1人でも多くの子どもたちが学校が楽しいよ、学校に行きたいよと言えるような学校づくりを目指して取り組んでいただくようお願いを申し上げます、私の一般質問を終わります。</p> <p>ありがとうございました。</p>
議 長	これで、山本一洋議員の一般質問を終わります。
休 憩	
議 長	<p>ここで休憩をいたします。</p> <p>14時10分から再開をいたします。</p> <p style="text-align: right;">(14:00)</p>
再 開	
議 長	<p>休憩前に引き続き、会議を開きます。</p> <p style="text-align: right;">(14:10)</p>
議 長	2番 池松和彦議員
池松議員	<p>よろしくお願ひします。</p> <p>議員になり、もうすぐ2年目が終わろうとしています。今日は12月の一般質問ということで、本当に時間がたつのは早いなと思っております。</p> <p>質問に移る前に、最近ではスマホが多くなってしまっているんですが、私はどちら</p>

	<p>かという本を読むのも好きなほうでした。それで、議員に当選した後に、レスリングの先生から頂いた本の影響で、1年半前から実は盆栽を始めています。近くの展示会に行ったり、10年後とか20年後にちょっとましなやつになればいいなと思って黒松の種をまいたりしているんですけども、そういった趣味からの勉強ですが、盆栽には見どころという考え方がありまして、展示会では、木の一番よいところを引き立てられるような飾り方をします。私はまだ初心者なのですが、木のよいところを探し出して引き出していくことが大事だと勉強しました。これは、人間でも皆さんよいところがあると思いますし、町でも、もちろん筑前町、よいところがいっぱいあると思いますけども、そういったものをどうやって見せていくかということが大事ではないかなと思います。</p> <p>そんな話もあるんですが、私も議員になって、視察研修で、去年は沖縄で平和学習、今年には東京で教育関連施設に行かせてもらいました。東京では、スポーツ施設、子ども食堂、インクルーシブ教育。そういった中で、視察先で感じたのは、ふだんは筑前町を内側から考えることが多いのですが、視察で外に出ると、ふだんは見えにくい筑前町を外側から考えることができたかなと思います。</p> <p>今日の質問は、筑前町のよいところ、そういった見どころは何なのか。また、その見どころをどうアピールしていくのかというテーマで進めていきたいと思えます。よろしくお願いします。</p> <p>まず、一つ目の質問です。</p> <p>筑前町のアピールポイントを活用していくためには、町内だけでなくほかの地域と連携していくことでさらによい部分が引き立っていくと思われまます。また、ほかの市町村のよいところが筑前町の町民のためにもなるということもあると思えます。そのためには、ほかの市町村との交流も欠かせないと思われまます。これは、旧夜須町の話ですけども、合併前の20年前には「3ヤス」という交流都市があったそうです。まず、当時の活動と、現在はどのようなことをしているかを質問します。</p> <p>お願いします。</p>
議長	企画課長
企画課長	<p>お答えいたします。</p> <p>ご質問の3ヤスは、合併以前の夜須町と滋賀県野洲町、高知県夜須町が「ヤス」という共通の地名をゆかりとして、平成9年に「3ヤスほほ笑み防災応援協定」、平成12年に「3ヤス友好交流協定」を結び、当時は、小中学生の交流や行政職員の交流、テーマを設けた意見交換などが積極的に行われていたようです。合併後も数年間は職員同士の交流が続けられ、平成19年に市町村合併による協定の整理を行い、改めて筑前町、野洲市、香南市として、防災応援協定を締結し、友好交流協定は廃止とされています。</p>
議長	池松議員
池松議員	<p>ありがとうございます。</p> <p>3ヤスは、地名のゆかりで協定を結んでいた町もそれぞれ合併して、現在は防災協定のみとのことでした。これは、いろいろな移り変わりの中で仕方ないことと思われまます。</p> <p>私の調べたところによりますと、平成11年から22年までの10年間で、平成の大合併の期間で、全国の市町村が5.5割になったということで、それから筑前町も20年たっている、ほかの合併後の市町村もそれだけ月日がたっているということです。</p> <p>二つ目の質問ですが、3ヤスに限る話ではないんですけども、以前の交流都市のよう</p>

	に、今後新たに、筑前町として、ほかの市町村と交流していくということは考えていないでしょうか。
議 長	企画課長
企画課長	お答えいたします。 現時点では、新たに他自治体との交流の協定等について検討はしていない状況です。
議 長	池松議員
池松議員	<p>現在、ほかの自治体との交流は検討していないということでしたが、これはいろいろな考え方をしていけないと思いたしますが、例えば、町の現在でも将来的な課題、どこの市町村も共通の問題もあると思いたすけども、そういった課題の解決に対しては、地元だけではやはり厳しい部分もあると。特に、年々上昇傾向にある生涯未婚率や、それに伴っての少子化傾向。これは今年の夏のエピソードなんですが、8月18日にあった朝倉婚活推進協議会のイベントというのがありまして、私もちょっと協力というか近くの方に呼びかけるといようなこともあったんですが、実際には実施がちょっと難しかったということで、地元だけで頑張っていくのも難しいのかなと感じたこともありました。</p> <p>そういった課題の対応に限らず、ほかにも、例えば、子どもたちの平和学習であったりスポーツなどの交流、青少年の育成を行うときにも連携できるようになる市町村があれば、町や住民の可能性を広げることもできるのではないかと思います。その辺りを踏まえて、今後の市町村の交流について、再度、考えを聞きたいと思いたす。</p>
議 長	企画課長
企画課長	<p>議員が言われるように、市町村間の交流は、職員同士であれば情報交換や課題の共有、自己研さんにつながるものであり、住民の方々が町内外で様々に交流されることには意義があるものと思いたす。</p> <p>町では、大刀洗平和記念館が南九州市、南さつま市と3館連携協定を結んで連携事業を行っているほか、近年では、国立夜須高原青少年自然の家、九州電力株式会社、筑後信用金庫などと、町の課題解決、地域資源の活用を目指して、包括連携協定を結んでおります。その内容は、防災や地域振興、環境問題、青少年育成、起業支援やスポーツ交流、移住支援など多岐にわたっており、それぞれの視点で提案や議論がされ、連携して取り組むことで、相乗効果やよりよい関係を構築していくことを目指しております。</p> <p>今後も、市町村交流に限らず、民間企業等を含めて、連携や協定等を検討していききたいと考えております。</p>
議 長	田頭町長
町 長	<p>幾らか補足をさせていただきたいと思いたす。</p> <p>今言われました「3ヤス」、それぞれのヤスに特徴がございました。まず、滋賀県の野洲町は行かれたと思いたすけれども、環境の日本の大先進地です。私も30年ほど前に行きましたけれども、まさに当時からエコカーを持っておりましてし、太陽光発電で図書館ができておりましてし、今でいう、うちでいうオンデマンドバスみたいなこともやっておりましたので、非常にそういったまちづくりで先進の町だったと。また、高知県の夜須町のほうは、非常にまた海に面したところであって、アートを生かしたまちづくりをやっていたと。また、阿波踊りも非常に上手であったと。そういったことでそれぞれの文化がある。</p> <p>そういった中でお互いに合併をしましたので、どうしたらいいだろうかということで、私いつも思いたすけども、300キロ離れれば、まねをしてもまねじゃない</p>

	<p>と言われております。だから、同じようなことをやっても、300キロ離れた地域でやればやれる。と同時に、同じ災害は300キロ圏内ではなかなか起こりがたいと。そういったときこそ協力と支援体制ができると。そういったことで、防災協定のみを絞って、特化して、今、協定として残っていったわけでございます。</p> <p>言われるように、やっぱりまちづくりを勉強し合う、そういった大きなテーマがなく、単なる遊興的なことだけでは、なかなか長続きするもんじゃないと思っております。隣の朝倉市さんは、高鍋町、それから米沢市といったふうに、きちっとしたゆかりのある地域と交流をして学んでおられます。やはり、学ぶアンテナを持って交流先を探す、そういったことが必要であると考えます。</p>
議長	池松議員
池松議員	<p>ありがとうございます。</p> <p>「学ぶ」というキーワード出ましたけども、まねるといって、ほかのよい自治体のいいところも、やっぱりまねて学んでいくということが大事かなと、今、考えました。</p> <p>この質問は当初は自治体との交流都市としての連携から入りましたが、さっき言われたように、既に様々な分野では連携事業や協定を結んでいるとのことで、また、記念館や企業との包括的な連携もあるとのことで、今後も視野を広く持っていて、町の課題解決のみならず、関係する方々にもメリットがあるような試みを期待しています。</p> <p>これはリクエストなんですけど、もし今後3ヤスのような交流都市をしていく、都市と関わっていくというときには、あまり遠過ぎると距離があるだけで、例えば子どもたちの交流をしていくのにもやはり大変だろうと思っておりますので、福岡県内で別の地域、海があるような市町村との交流を持てれば、また新しい活動ができてくるのではないかなと思っております。今後検討する際にはその辺りもお願いしたいと思っております。</p> <p>続いて、次の質問に移ります。</p> <p>冒頭で、委員会で視察に行ったことを話しましたが、町の課題や議員としての見識を広げるためには、実際に先進地を現地で見ることや話を聞くことが大切だと思っております。また、そういった中から、新しい地域との関係や人間の交流が生まれると思っております。</p> <p>今年、東京に視察に行ったときは、山隈区出身の椿議員という東京都大田区の区議の方の紹介とか案内とかがあり、非常に有意義な視察ができました。そこで、例年視察先を委員会で話し合っていて決めているわけなんですけど、少し見方を変えまして、逆の立場になってみたらどうなのかなと思っております。筑前町には視察で県外から来てもらっている部分がどのくらいあるのかなということなんです。</p> <p>質問ですが、筑前町がほかの地域から視察を受け入れることもあると思っておりますが、行政視察であったり各課の視察であったり、どういった視察の関係が多いのか教えてください。</p>
議長	総務課長
総務課長	<p>お答えいたします。</p> <p>視察の受け入れにつきましては各課等で現在行っておりますので、視察受け入れの総括的な窓口は設けておりませんので、総務課からお答えをさせていただきます。</p> <p>これまで視察受け入れ状況の調査もしておりませんでしたので、今回の池松議員の一般質問を受けまして、直近であります令和5年度から6年10月までの調査結果でお答えをしたいというふうに思います。</p> <p>令和5年度につきましては、県内、県外を含めまして、大刀洗平和記念館が3件、</p>

	<p>人権同和对策室が1件、議会事務局1件の計5件を受け入れております。</p> <p>6年度に入りまして、10月末時点での調査では、大刀洗平和記念館が2件、環境防災課が1件、企画課が2件、議会事務局1件の計6件を受け入れている状況でございました。</p> <p>また、参考としまして、みなみの里の視察受け入れが多くありまして、直近2年間で計42件の視察件数の報告を受けているような状況でもございます。この状況から、みなみの里を除きますと、本町では大刀洗平和記念館への視察が多い状況となっております。</p> <p>以上でございます。</p>
議長	池松議員
池松議員	<p>いろいろ細かく視察の件数を調べていただきありがとうございます。公式な視察だと、事務局を通したりとか役場のほうに依頼があるというのも数字としては分かりやすいと思いますけど、普通の団体がみなみの里であつたり平和記念館に行くときは、通常の利用ということも含めたらかなりの受け入れがあるのではないかなと想像しています。</p> <p>視察からの関連ですけれども、私の考える筑前町の名物といえば、町長も午前中、言われておりましたが、春は草場川の桜並木、秋から冬はわらかがしが有名、これは若者会の方がどうやってつくっていったのか、ボランティアにどうやって助けてもらっていたかと。あとは、みなみの里、平和記念館、そして掩体壕もそのうち見学できることになると思います。また、新米を町民全員に配るといようなことができるのも、全国でも筑前町だけではないかなと思います。</p> <p>また、一番は、全国的にも人口が増えている町というのも貴重な存在であろうと思います。こういったなぜ人口が増えているのか。この部分には、北海道大学から合併の成功のお墨つきもいただいたという話もございましたが、こういった部分を生かして、県外からの視察は町のアピールにもつながるのではないかなと思います。より筑前町のストロングポイントを内外にアピールできると思います。</p> <p>県外の方が視察先の検討として筑前町を視野に入れるときに、まず最初に町のホームページなりを検索することになると思うんですけども、筑前町の町のホームページで、ぜひ受け入れ実績や、またはそういったアピールしていくポイントを公開してはと思いますが、いかがでしょうか。</p>
議長	総務課長
総務課長	<p>お答えいたします。</p> <p>議員ご発言のとおり、町ホームページを活用しての情報発信は大切なことだというふうに考えております。</p> <p>現在でも本庁の視察依頼があれば、日程や受け入れ体制などが整えば、視察受け入れに応じていることは先ほどの答弁のとおりでございます。</p> <p>一つは、自治体が抱えている課題等に対して取り組みを行っている先進地を訪問し、レクチャーを受けたり現場を見たりするなど勉強させてもらい、スキルと知識を向上させ、自身の町に有益な情報を持ち帰る。そして、同様の取り組みなどを導入・実施できるか、さらによりよくするための改善策等を見出す過程の一つであり、実態を直接体感できるのも視察の目的の一つであると考えております。</p> <p>ご質問に係る視察受け入れにつきましては、職員等で生み出した事業等のノウハウに価値が認められ、行政価値も高まり、まちの情報発信も行うことができ、視察を受け入れることで職員の意識向上も図られ、シティプロモーション効果もあり、取り組んでいる当該事業の有効性を確認できる一つとも考えられるところで。</p> <p>しかしながら、視察受け入れにつきましては、外部からお客様を招き入れること</p>

	<p>から、通常業務時間中に職員の適切な対応、併せて視察対応のための資料作成などが必要であり、視察が多くなればなるほど、それに費やす時間で通常業務への支障、労力で職員の負担増、また、費用面の負担増加も考えられるところです。</p> <p>このことも踏まえ、視察が多い全国の自治体では、視察の有料化で新たな財源確保や自治体内での宿泊や飲食などを取り入れ、経済波及効果も狙い、視察を業務の一つとして取り組んでいる自治体も増えてきているのも現状でございます。</p> <p>これらのことから、視察依頼があれば、日程や受け入れ体制など対応可能であれば、今後も本町としましては視察を受け入れてはいきますが、他の自治体が行っているような積極的な受け入れは、組織体制も含め、受け入れ体制等まだまだできていないことなどからも、現在は積極的な視察受け入れは考えておりません。</p> <p>しかしながら、視察受け入れは本町の評価を上げるいい機会でもあり、やり方次第では経済波及効果にもつながる可能性、本町の認識度が上がり、イメージアップにもつながることもありますので、これらのメリットを含め、研究をしたいというふうに考えております。併せて、町の魅力を伝える情報発信にも努めていきたいというふうに考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	池松議員
池松議員	<p>簡単に口だけでどうですかと言っている部分もありますので、実際やるとなったらもう非常に大変ということは分かりました。引き続き、これから研究していただけるということで、また、情報発信にも努めていただけるということで、大変ありがたいなと思います。</p> <p>先ほど、町内の内側の名物的な部分を述べましたが、少し見方を変えて、筑前町の立地から考えますと、とかいなかという、緑が多いが都会のほうにも割と近く通勤も可能であるという立地、また、福岡市の再開発である天神ビッグバンは全国的に注目されています。この部分で言いますと、福岡市の視察も多いのではなからうかと思えます。</p> <p>また、令和の語源の発祥となった太宰府は、福岡空港から筑前町に向かう途中にあります。道もつながっております。また、福岡市に来て、太宰府に来て、筑前町に来ていただいたら、隣の朝倉市にはアフガニスタンで医療活動されていた中村哲氏の記念碑もあり、関係の山田堰もあります。こういったことを考えると、いろいろな関係の方が来ることができる。また、その後は、宿泊地として原鶴温泉や、その後、お土産で東峰村、小石原焼、高取焼に行っていただくようなことが、視察としては非常に良いコースではないかなと思えますが、こういった形で全国から福岡を見て、朝倉方面を見てもらう。これ、修学旅行でもかなりよいコースになるのではないかなと思えます。</p> <p>そういったことから、福岡から朝倉地域を見たときの玄関に位置づけられているのは、筑前町と言えらると思えます。朝倉地域内での筑前町の役割は、全国のほかの地域からこの朝倉地域に来ていただくきっかけづくりの役割もあると思えます。</p> <p>最後の質問になりますが、以上のことから、広い視野で、近隣の市町村、福岡に来ていただいて、その後、こちら側に来ていただくような、連携したロードマップをつくってはと思えますが、いかがでしょうか。</p>
議 長	企画課長
企画課長	<p>視察などを機に、筑前町・朝倉地域の魅力をアピールしてはどうかというご提案ということで、観光PRの面から企画課がご回答いたします。</p> <p>朝倉市、東峰村とは同じ圏域として以前から観光事業の連携をしております。朝倉市や東峰村、本町を目的に訪れた方々に、この地域を周遊いただくように、広域</p>

	<p>周遊のマップを共同で作成して、圏域内外に配架をしております。今年は道の駅を中心としたマップを作成し、スタンプラリーを計画しています。</p> <p>本町の視察に来られた際には、町の観光マップや大刀洗平和記念館、文化財や特産品のパンフレット、移住冊子などを配布し、まちを知っていただく機会とさせていただきます。</p> <p>また、毎年、祭りで制作する巨大わらかがしは、町外からも多くの見学者があり、町のPRに大いに貢献しています。このわらかがし作品を町の名刺のデザインとして生かしていることもPRにつながっているのではないかと考えております。</p> <p>朝倉圏域や筑後地域との連携においても、魅力ある資源をお互いに生かしながら、さらに近隣自治体との連携も検討していきたいと思っております。</p>
議 長	池松議員
池松議員	<p>ありがとうございます。</p> <p>朝倉圏内では、観光事業として、実際にいろいろされているということでした。思うのは、例えば福岡空港とか博多駅とか、または東京でも大阪でもいいと思いますが、筑前町のこういうまちですよとPRするポスターとかがあってもよいのかなと思います。</p> <p>最近読んだ本の中で松本清張さんの古い本なんですけども、「点と線」という本を読みましたが、点だけじゃなくて、やっぱりそれがつながっていくことで、何かヒントが隠されているような、そういうことがこの筑前町、福岡から筑前町、それで朝倉地域、考え得るのではないかなと思います。</p> <p>本日は、ほかの市町村との連携交流、視察の関係を質問しました。連携や交流をする、そして、実際に町に来ていただき筑前町を知ってもらおう。そして、町のよい部分をアピールしていくことが、筑前町だけでなく、交流する市町村や近隣とのよい関係につながっていくと思います。次の30周年、40周年に向けて今から考えていくことも多いと思いますが、ぜひ頑張ってくださいと思います。</p>
議 長	田頭町長
町 長	<p>池松議員が言われるように、そういった人が来ることによってまちが元気になる。私はいつも言っておりますけども、人は注目されると元気が出ますし魅力が増します。町も全くそのとおりで、見ていただくと話題になって町が元気になってまいります。そういったことから来ていただくことは大事なんですけども、ただ、通過町になってしまう危険性も持っているということでもあります。例えば、太宰府はすばらしい文化財、お寺、神社等がございますし、併せて、水城という歴史的な遺産もございます。大野城もございます。ただ、筑前町にはそういった本当に歴史的なものがなかなか希薄であると。そして、ちょっと越しますと、秋月という大城下町がある、そして原鶴温泉がある、筑後川がある、中村哲さんがいると。そういったふうに大きな資源に恵まれておりますので、ともすれば筑前町は素通りになっていく危険性を持っていると。</p> <p>ですから、本当に観光を大事にすると考えれば、やっぱり我が町はそういったハングリーな気持ちになって観光事業を起こさなくちゃいけないんだろうと思っております。我が町で本当に観光と言えるものは何かというと、経済を伴う観光といえば、花立山温泉とゴルフ場ぐらいじゃないかなと私は思っているところであります。そこにちょっと今、みなみの里ができたということでございまして、経済効果がないと継続性がないと思っておりますので、そういった経済効果を生むような、そういった人たちを生かせるような何か手だてを、やっぱり我々は知恵を出して、何もないがゆえに知恵を出してつくるべき必要があると思っております。どんなすばらしい名所旧跡であっても、最初はなかったわけでありますから、そこに新たなもの、</p>

	人為的なもの、支援確保的なものを再発見して観光名所としてつくっていったわけ であります。我が町はそういった歴史的な遺産はそう多くありませんので、そうい ったものを我々が知恵を出してつくり出していくことによって、その観光というも のが我が町にも効果をもたらすと、そのように考えるところでございます。今から、 古きも若きもみんなが知恵を出し合って、そういった観光という視点でつくり出す 必要があるかと思っております。
議 長	池松議員
池松議員	ありがとうございます。 本当に、これからいろいろ厳しい時代になっていく可能性もあるんですが、知恵、 アイデア、皆さんで、我々も出していって、筑前町のシティプロモーション、さっ き言葉としてありましたが、頑張っていきたいなと思います。 これで私の一般質問を終わります。
議 長	これで、池松和彦議員の一般質問を終わります。
休 憩	
議 長	ここで休憩をいたします。 2時50分から再開します。 (14:42)
再 開	
議 長	休憩前に引き続き、会議を開きます。 (14:50)
議 長	10番 奥村忠義議員
奥村議員	それでは、通告書に基づき一般質問に入ります。 まずはデジタル教育の将来についてでございますが、私にも再来年度に小学校に 入学する孫がおります。ここにおられる皆さん方にも、入学間近のお孫さんや、既 に小学生・中学生のお孫さんがいらっしゃる方もおられることだと思えます。 この件につきましては、私自身、知識不足でまだ乏しくて、まだまだ勉強しなく てはいけないと考えているところでもございますが、子どもたちの将来のためにも、 時期尚早とは思いますが、質問させていただきます。 そこで、①のタブレット教育の将来についてでございますが、最近、週刊誌等で 目にするのは、日本ではデジタル教育がGIGAスクール構想によって本格化して おります。GIGAスクール構想とは、2019年に開始された児童生徒1人に1 台のコンピューターを整備する文部科学省の取り組みだそうです。本格化している 中で、海外では、語学など一部の教科で紙の復活が始まっている国も数か国あると、 週刊誌等では報じられています。 10歳から12歳の生徒を対象にした調査では、タブレット端末を使った教育よ りも、紙と鉛筆を使った従来型の学習方法のほうが、集中力が高まり、気が散るこ とが減っているといった結果も出ているようでございます。 10歳、12歳でもそうなのですから、小学生になったばかりの6歳児にタブレ ット端末を渡して、しっかり勉強してください、集中してくださいと頼むのも、無 理な話ではないでしょうか。 そもそも、読書の文化を確立することが教育の基本とも考えられます。このタブ レットと紙の資料をうまく用いた教育環境について、教育長の見解をお尋ねいたし ます。
議 長	宮崎教育長
教 育 長	お答えいたします。 本来、GIGAスクール構想では、令和5年度までに、全国の児童生徒に1人1

	<p>台端末が配布される計画でございましたけれども、コロナ感染症のためにそれが前倒しになって、急速に対応せざるを得ない状況になったことは事実だろうと思っております。</p> <p>GIGAスクール構想で1人1台端末が整備されて、今年度で4年目になります。本町の学校の授業ではタブレットを使うことが日常となりました。また、家庭の毎日の持ち帰り、これも当たり前になりつつあるところです。</p> <p>子どもたちは、一人ひとり、理解の度合いや学習のスピード、それから学び方の得手不得手が様々でございます。1人1台端末を活用することで、子どもたち一人ひとりが主体的に学ぶ授業に改善できると考えております。以前でしたら、子どもがノートに書いた考えや作った作品を発表したりするときに、大きな模造紙に書いてみんなの前で発表したり、実物を見て回ったりしていましたが、今1人1台端末を活用することで、目の前にある自分の端末で、全ての学級の子どもたちの考えを瞬時に見ることができるようになっております。限られた時間の中で、今までだったら手を挙げて一部の子どもの発表して進んでいく授業だったのが、全ての子どもたちの考えが全ての子どもたちに伝えることができる、一人ひとりの子どもが主人公の授業に転換できております。</p> <p>ただ、1人1台端末だからこそこできる授業が可能になったということは事実でございますけれども、その弊害もあることが報道されているということも承知しているところです。紙かデジタルかの二者択一ではなく、それぞれのよさがあると思えますし、それぞれの意義があると思えますので、それらを踏まえて、効果的にデジタルも紙も最大限によさを生かすハイブリッドの教育が大事だと考えているところでございます。</p> <p>以上でございます。</p>
議長	奥村議員
奥村議員	<p>今教育長がおっしゃいましたように、タブレットと紙の資料ですか、本当、私この両方必要だと思っております。</p> <p>私の、一番小さくてまだ3歳、もうすぐ3歳になりますが、そういう孫でも今タブレットでユーチューブを見たりとか、いろんな知識、大人が知らないような知識を、タブレットで見つけることもございます。そういうことには本当感服いたし、いいなと思えますけれども、その中でも、やっぱり外に目を向ける、みんなで協力し合うとか、一人ひとりが主人公というよりもみんなが主人公というような、そういう考え方もあっていいんじゃないかと思うし、ゆとりがなくなっていくんじゃないかなと、教育にゆとりがなくなっていくんじゃないかなという、そういうところもちょっと懸念されます。</p> <p>それでは、次の2番について質問いたしますが、諸外国、特にドイツやフィンランドなどでは、既にタブレットの見直しも始まっていると聞いております。また、それ以外の国もたくさんあると思えますので、ほかにはどのような国があるのか、また、日本では今後の教育方針についてどういった方向で進めていくのか、分かっている範囲で構いませんので、お答え願います。</p>
議長	教育課長
教育課長	<p>お答えいたします。</p> <p>新聞では、ICT先進国のスウェーデンが、紙の教科書や手書きを重視する動きがあると報道されております。</p> <p>我が国におきましては、デジタル教科書が、今年度から英語、算数、数学で本格導入され、現在、文部科学省はデジタル教科書の推進に向けた検討をはじめ、紙とデジタルの併用を国語などほかの教科にも広げることが議論をされているところで</p>

	<p>ございます。 以上でございます。</p>
議 長	奥村議員
奥村議員	<p>今の回答の中に、紙とデジタルの併用という回答がございました。紙とデジタルの併用と、言葉にすれば簡単、聞こえも簡単ではございますけども、どういった方向で、紙の資料とタブレットをどのように使い分けて教育されていくのか、もしよかったら、分かればお答え願います。</p>
議 長	宮崎教育長
教育長	<p>お答えいたします。 紙は、手元にあって、鉛筆で書いたりして、それを直接子どもたちに見せることもできますし、紙に貼って教室なり残すこともできます。非常に人の文字というのは温かみもあるし、手紙がいい例だと思っております。逆に、デジタルは、先ほど言いましたように、保存性とか瞬時に情報交換できる、そういったそれぞれのよさがあると思っておりますので、紙とデジタル、やはり両方のよさを生かして子どもたちの教育に生かしていきたいと思っております。 以上でございます。</p>
議 長	奥村議員
奥村議員	<p>今教育長おっしゃいましたように、確かに、紙に鉛筆で文字を書く、絵を描くということ自体が、子どもたちの個人の尊重というか、特技とか、いろいろあると思っておりますけど、一人ひとりが生かしていく部分で、私自身、非常に大切な部分であるかなと思っております。そこら辺で、両方をうまく使いこなせるような教育をお願いしたいと思っております。 それでは、次の質問に入らせていただきます。 ヤングケアラーについての質問でございますが、子ども・子育て支援法等の一部を改正する法律において、子ども・若者支援推進法が改正されました。国、地方公共団体等が、各種支援に努めるべき対象にヤングケアラーが明記されたが、本町においては、ヤングケアラーと思える子どもの実態と、どの程度把握しておられるかをお尋ねいたします。また、各種支援の中身についても、兄弟の面倒を見ていて学校に通えない子どもとか、親が病気のために家事の全般をしなくちゃいけないとか、様々あるとは考えられますが、差し支えなければ回答をお願いいたします。</p>
議 長	教育課長
教育課長	<p>お答えいたします。 ヤングケアラーの実態把握につきましては、児童生徒が家族の介護や日常生活の世話を過度に任される状況にないか、アンケートを年2回、児童生徒の1人1台端末を活用して把握するようにしております。 アンケートにより把握した事例については、当事者がやむにやまれぬ思いで発信してくれたことを考え、申し上げることは控えさせていただきたいと思っております。 以上です。</p>
議 長	奥村議員
奥村議員	<p>多分そういうことじゃないかなとは思ってございましたけども、そういう子どもたちがどの程度この筑前町にしているのか、そこだけでもよかったらお答え願います。</p>
議 長	宮崎教育長
教育長	<p>お答えいたします。 先ほど課長が答弁しましたように、タブレットを使って年2回、アンケート調査をしているのは昨年度からでございます。</p>

	<p>数字としては、去年は10数件上がってきたわけでございますけども、緊急性があるのかないのか分からなかったのが、今年度はすぐに先生に相談したいかどうかというチェック項目も設けたところでございます。そういったところでやると、子どもたちは、ちょっと親、保護者から用事をお願いされると遊びに行きたくても行けなかったり、そういった軽いことでも答えていたわけでございますけども、今年度、先ほど言いましたようなチェックリストをつけたところ、帰ってきた子は1件か2件でございました。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	奥村議員
奥村議員	<p>実態の解明ですか、それはもう難しいところがあるかとも思いますが、それでは、次の質問で、本町としてヤングケアラーの子どもたちを救う手だてとしてどういった解決策を考えておられるのか、また、現在携わっている家庭や子ども、それに今までに対応してこられた事例があればお聞かせください。</p>
議 長	教育課長
教育課長	<p>お答えいたします。</p> <p>アンケートの結果により、各学校はもちろん、教育委員会でも把握できるため、心配な状況にあると懸念される児童に対しては、学級担任等が面談を行い、保護者と相談し改善を促したり、状況に応じて教育委員会がこども未来センターと連携し、支援の方法等を協議し、対応したりすることとしているところでございます。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	奥村議員
奥村議員	<p>今の回答というか、私が知りたいのは、どういった子どもがいて、具体的じゃなくても構わないので、それはどのように解決してきたか、そういう事例があれば、1件でもあれば、それをお聞かせ願いたいと思っておりますが、どうでしょうか。</p>
議 長	宮崎教育長
教育長	<p>お答えいたします。</p> <p>先ほど課長も申し上げたように、具体的な内容につきましては差し控えさせていただきますけども、やはり自分の時間が、勉強する時間が持てない、家庭の事情で持てないといったことをアンケートに出してきた子については、まずは担任がその子に対して詳しく話をし、そして、保護者と話すよという了解の下でまず保護者に話す。で、学校が保護者と話し改善をなされた。本町におきましては、今そういった状況でございます。</p> <p>先ほど課長答弁しましたように、もっと深刻になれば、こども課と連携して、例えば児童相談所に相談をしたりすることも考えられると思っております。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	奥村議員
奥村議員	<p>そういった家庭の事情で、もろもろ学校に行けない子どもとか勉強できない子ども、これからも出てくると思いますけど、その都度いい方向に向かった解決をお願いしたいと思います。</p> <p>それでは、次の、本町における各小学校の卒業式の服装についてでございます。</p> <p>もう制服が変わってから3年になります。毎年、中牟田小学校の卒業式に出席させていただいております。その会場では、ここ数年は見かけませんが、着物姿の卒業生も過去には数名いました。最近では着物姿は見かけないものの、今年の卒業式でもそうでしたように、子ども向けのファッションショーと見まがうような子どももいれば、質素な服装の子もいます。</p> <p>そこで、質問というよりも、できたらいいなといった私のお願いや希望でもある</p>

	<p>のですが、私立に進学する子どもは別にしまして、本町の中学校に進学する児童だけでも、中学校の制服を着用することができたら経済的にも助かる保護者の方もいらっしゃるんじゃないかなと思います。その件については、どうでしょうか。特に、また、男子児童に限っては、卒業式の服装というのはカッターシャツにベストといった、こういう服装の子がたくさんいます。それを見ていると、さほど中学校の制服と違いはないんですよ。だから、そういうところも加味して、余計なお金を使わないというか、経済的にも助かるという部分もありまして、中学校の制服を卒業式で着用してはどうかなと思いますが、教育長の見解をお尋ねします。</p>
議 長	宮崎教育長
教育長	<p>お答えいたします。</p> <p>卒業式は、特別活動の学習としての儀式的行事でございます。卒業式の意義、それからその場にふさわしい参加の仕方について理解して、厳粛な場における儀礼やマナー等の規律、気品のある行動の仕方などを身につけることがこの学習では求められます。</p> <p>中学校の制服を着用することにつきましては、町外の中学校に進学する児童もいること、また、これまで私服が通例であり、中学校の制服着用に統一することには賛否があることから、各小学校におきまして、保護者や児童からの自発的な提案があったり合意が得られたりすることが必要だと考えております。</p> <p>卒業式の服装が華美にならないことは大変大切でございますので、今後とも、学校を通して、保護者や児童に理解と協力をお願いしてまいりたいと思っております。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	奥村議員
奥村議員	<p>さっきも申しましたように、私立に進学する子どもも当然います。そこで、強制じゃなくて、もし制服が卒業式前に間に合って、そこで子どもたちが自由に選択できると、中学校の制服を着ることができると、そういう子がいれば、やっぱり経済的にも助かる保護者の方もいらっしゃると思いますが、だから、決して強制じゃなくて、この制服を着ても構いませんよと、保護者の理解とおっしゃいましたけども、保護者が理解した上でそういうふうと考えられる親御さんもいらっしゃると思いますが、その点に関してはどうでしょうか。</p>
議 長	宮崎教育長
教育長	<p>お答えいたします。</p> <p>恐らく、今までは中学校の制服でもいいよといったことを言わなかったのが、着る選択がなかったのかもしれないかもしれません。それは定かではございませんけども。したがって、中学校の制服が3月の中旬の小学校の卒業式に間に合うようであれば、選択肢の一つとして着用してもいいよということは、学校を通して保護者や子どもに言うことは可能だと思いますので、それは選択するかどうかは保護者、子どもの自由だと思っております。</p> <p>以上でございます。</p>
議 長	奥村議員
奥村議員	<p>選択の自由ですか、それは保護者やその卒業生に任せるとしまして、何人いるかわからないけど、そこでも少しでも経済的に助かるような家庭があれば、そうしてあげるべきじゃないかなと私は思っております。そのところを、今、教育長もおっしゃいましたように、また、学校と相談されて、卒業式に間に合うよう、制服を間に合わせていただきたいと思いますと思っております。</p> <p>これにて私の一般質問を終わります。</p>

議 長	これで、奥村忠義議員の一般質問を終わります。
散 会	
議 長	これで、本日の日程は全部終了いたしました。 本日はこれにて散会します。 お疲れさまでした。 <p style="text-align: right;">(1 5 : 1 2)</p>